

DynaBook を使いこなすためのサポート情報

● まずマニュアルを読んでください

ステップ1 「安心してお使いいただくために」をお読みください
パソコンをお取り扱いいただくための注意事項について



ステップ2 「初めの一冊」とビデオ「す
すいセットアップビデオ」
が役に立ちます
電源を入れてパソコンを使え
るようにするまで



ステップ3 特に初心者の方へ「パソコンの基本」
パソコンの基本操作や文字入力について説明



ステップ4 「クリエイティブブック」でパソコン
を楽しみましょう
インターネットや電子メール、オリジ
ナルCDの作りかた、アプリケーショ
ンソフトの紹介など



ステップ5 「ハードウェアガイド」で調べてみま
しょう
パソコンの機能や設定、周辺機器の接
続など



「トラブル解消Q&A」を開いて対応方法をチェックします
再セットアップについても説明
用語集も付いた困ったときのお役立ちブック

● リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。

本製品の電源を入れた状態で、[スタート] → [DynaBook クイックスタート] → [お読みください] → [リリース情報] をクリックするとご覧になれます。

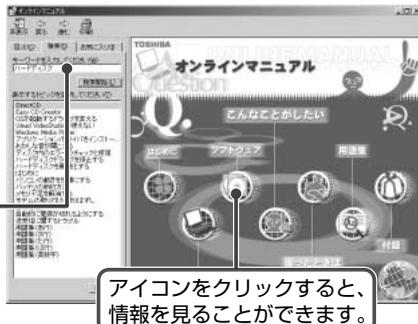
● オンラインマニュアルについて

「パソコンの操作で困った」「こんなことがしたい」「アプリケーションソフトの使い方を知りたい」「用語の意味を知りたい」。

こんなとき、パソコン上で検索できる「オンラインマニュアル」があります。知りたいジャンル別にさまざまなQ&A情報を見ることができます。

- 1 デスクトップの [スタート] ボタンをクリックする
- 2 メニューバーから「オンラインマニュアル」をクリックする

知りたいことのキーワードを入力すると、情報を検索することができます。



● dynabook.com

東芝PC情報サイト「dynabook.com」(<http://dynabook.com/>)ではDynaBookの最新情報やサポート情報を提供しています。

- 参照  インターネットについて
↳ 『クリエイティブブック 2章 2 インターネットに接続する』



● Windows のヘルプ

Windows の操作についての情報もパソコン上で検索できます。

- 1 デスクトップの [スタート] ボタンをクリックする
- 2 メニューバーから「ヘルプ」をクリックする



もくじ

もくじ	2
はじめに	5

1 章 本体の機能 9

1 各部の名前	10
2 ナビパネルとジョグボタン	13
3 オーディオプレイボタン	23
4 タッチパッド	24
5 ディスプレイ	32
6 ハードディスクドライブ	34
7 サウンド機能	35
1 スピーカの音量を調整する	35
2 音楽／音声の録音レベルを調整する	37
8 バッテリ	39
1 バッテリ充電量を確認する	41
2 バッテリを充電する	44
3 バッテリパックを交換する	46
4 省電力ユーティリティを使う	47
9 CD / DVD	53
1 CD / DVD	54
2 CD / DVD のセットと取り出し	56
3 バックアップ	60
10 日常の取り扱いとお手入れ	66

2章 周辺機器の接続 71

1	周辺機器について	72
1	本製品に接続できる周辺機器	73
2	周辺機器を使う前に知っておきましょう	75
3	周辺機器の取り付け／取りはずしのご注意	76
2	<small>ピーシー</small> PCカードを接続する	77
3	<small>ユーエスピー</small> USB対応機器を接続する	82
4	テレビを接続する	84
5	<small>アイリンク</small> <small>アイトリプルイーチサンキューヨン</small> i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する ...	89
6	光デジタルオーディオ出力端子 対応機器を接続する	92
7	オーディオ機器を接続する	95
1	マイクロホン	95
2	ヘッドホン	96
3	オーディオ機器	97
8	フロッピーディスクドライブを接続する	98
1	フロッピーディスク	99
2	フロッピーディスクドライブ	101
3	フロッピーディスクのフォーマット	103
9	メモリを増設する	105

3章 パスワードセキュリティ機能 109

- 1 パスワードセキュリティ機能について 110
- 2 ユーザパスワードの設定 111
- 3 ユーザパスワードの入力 114
- 4 スクリーンセーバーパスワード 115

4章 仕様 117

- 1 本製品の仕様 118
 - 1 外形寸法図 118
 - 2 サポートしているビデオモード 119
 - 3 メモリマップ 120
 - 4 I/Oポートマップ 121
 - 5 DMA使用リソース 122
 - 6 IRQ使用リソース 122
- 2 各インタフェースの仕様 123
 - 1 i.LINK (IEEE1394) インタフェース 123
 - 2 USBインタフェース 124
 - 3 モデムインタフェース 124

さくいん 142

はじめに

本製品を安心してお使いいただくために重要な事項が添付の冊子『安心して
お使いいただくために』に記載されています。よくお読みください。
本書は、次のきまりに従って書かれています。

記号の意味

 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡する、あるいは重傷 ^{じゅうしょう} を負う危険が差し迫って発生する可能性があることを示します。
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡する、あるいは重傷 ^{じゅうしょう} を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害 ^{しょうがい} *1を負ったり、物的損害*2の発生が想定される内容を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下をおこさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っておくと便利な内容を示します。
 用語	覚えておくと役に立つ用語を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合… 「 」 他のマニュアルへの参照の場合… 『 』 オンラインマニュアルへの参照の場合… 〈 〉

*1 傷害^{しょうがい}とは、治療^{ちりょう}に入院や長期の通院を要しない、けが・やけど・感電などをさします。

*2 物的損害とは、家屋・家財にかかわる拡大損害を示します。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム	特に説明がない場合は、ご使用になるオペレーティングシステム (OS) を示します。
アプリケーションまたはアプリケーションソフト	アプリケーションソフトウェアを示します。
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版を示します。
MS-IME	Microsoft® IME スタンダード 2002 を示します。
マルチドライブモデル	CD-R/RW ドライブと DVD-ROM ドライブ両方の機能を持ったマルチドライブが内蔵されているモデルを示します。
CD-R/RW ドライブモデル	CD-R/RW ドライブが内蔵されているモデルを示します。

記載について

- ・ 本書に記載している画面は、実際に表示される画面と異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、MS-DOS、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。



ドルビー商標について

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

お願い

- ・本書の内容の一部または全部を、無断で転載することは禁止されています。
- ・本書の内容は、予告なしに変更することがあります。
- ・記憶装置（ハードディスク、フロッピーディスク）や、CD-R、CD-RW に記憶された内容は故障や障害の原因にかかわらず保証いたしかねます。
- ・本製品にプレインストールされているシステム（OS）以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。
- ・ご購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。お取り扱いにはご注意願います。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、お使いの機種を確認後、お近くの保守サービスにご依頼ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

本書の内容について万一不可解な点や誤りなど、お気づきの点がございましたら、東芝 PC ダイアル（巻末参照）までご一報ください。

お使いになる前に本体同梱のお客様登録カードに必要事項をご記入のうえ、返送してください。

保証書は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1 章 本体の機能

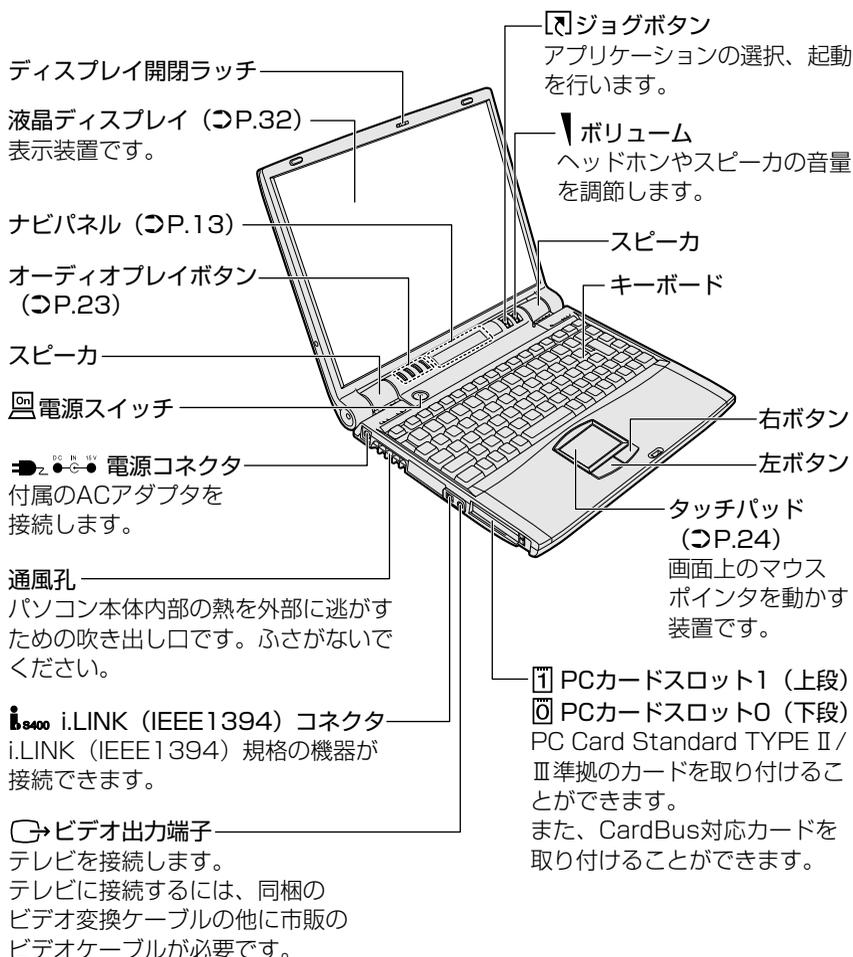
1	各部の名前	10
2	ナビパネルとジョグボタン	13
3	オーディオプレイボタン	23
4	タッチパッド	24
5	ディスプレイ	32
6	ハードディスクドライブ	34
7	サウンド機能	35
8	バッテリー	39
9	CD / DVD	53
10	日常の取り扱いとお手入れ	66

1

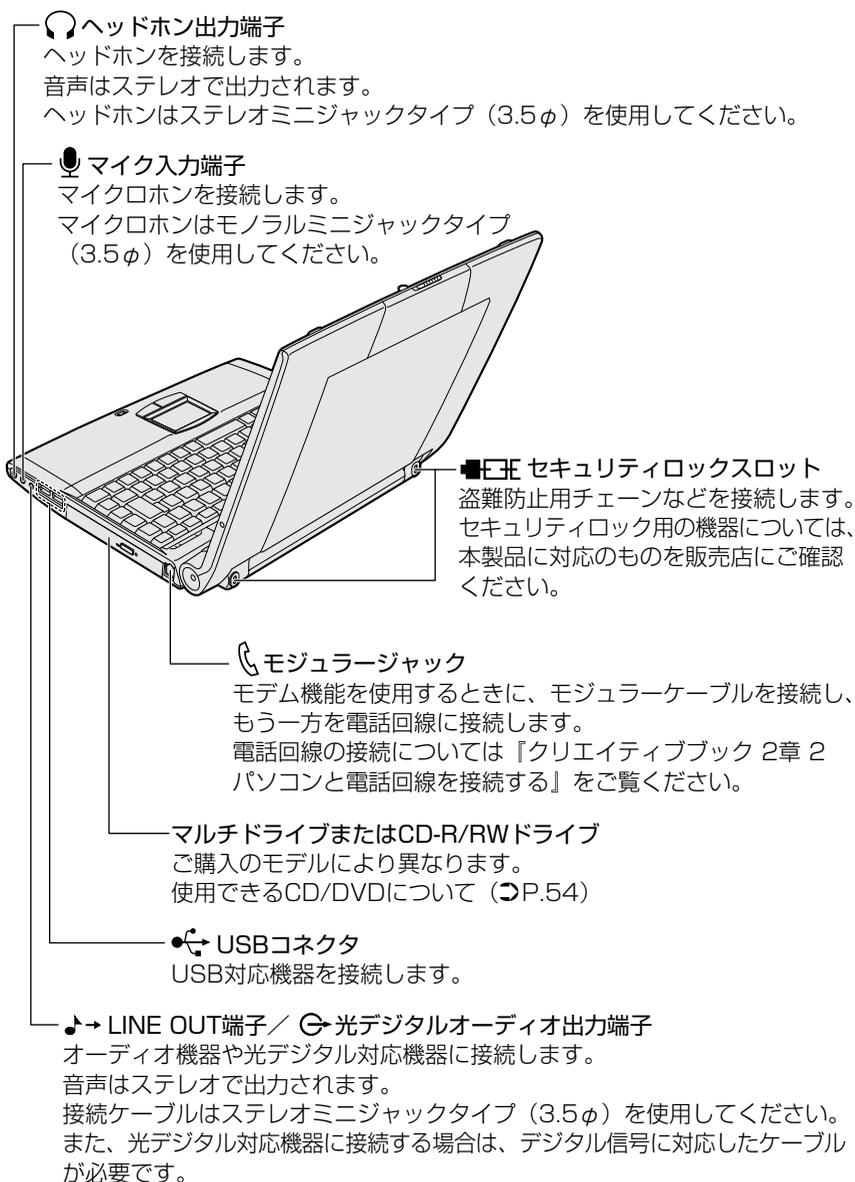
各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、各参照ページをご覧ください。

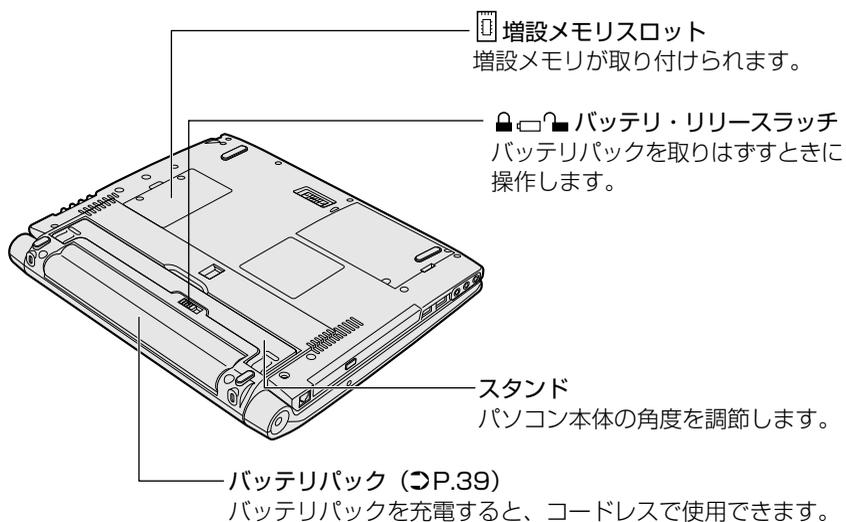
前面図



背面図



裏面図



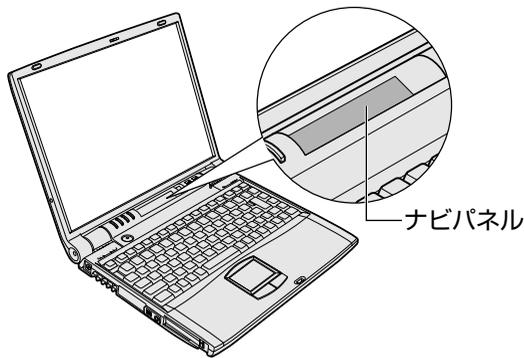
2

ナビパネルとジョグボタン

ナビパネルは、パソコンの状態をアイコンで表示したり、アプリケーション名やCDの再生時間、新着メール数などを文字列で表示したりできます。また、バックライトの色を7色から選択できます。アプリケーションの選択、起動はナビパネルの右側にあるジョグボタンで行います。

ナビパネルに表示されるアイコン

ナビパネルに表示されるアイコンの表示状況によって、パソコン本体がどのような動作をしているか知ることができます。



次のアイコンはパソコン本体の動作状況を表しています。

	ACアダプタアイコン	ACアダプタを接続している ☞『パソコンの基本 2章 1 電源を入れる』
	電源アイコン	電源ON ☞『パソコンの基本 2章 1 電源を入れる』
	スリープアイコン (スタンバイ状態)	スタンバイ機能を実行している ☞『パソコンの基本 2章 3 パソコンの使用を中断するとき』
	スリープアイコン (休止状態)	休止状態になっている ☞『パソコンの基本 2章 3 パソコンの使用を中断するとき』
	ハードディスクアイコン	ハードディスクドライブにアクセスしている ☞「本章 6 ハードディスクドライブ」
	大文字ロックアイコン	文字入力の「大文字ロック状態」 ☞『パソコンの基本 4章 6 キー操作一覧』
	バッテリーアイコン	バッテリー残量の状態 ☞「本章 8 バッテリー」
	光ディスクアイコン	CD-R/RWドライブ／マルチドライブに アクセスしている ☞「本章 9 CD／DVD」

* [Mute] は消音を表しています。

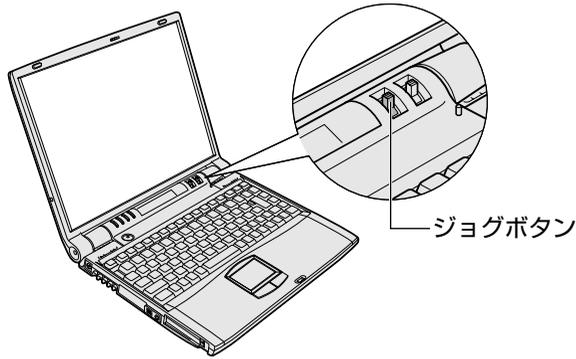


● CD-R/RW ドライブまたはマルチドライブに CD や DVD がセットされているかどうかを検出するために、定期的に光ディスクアイコンが点灯します。点灯させたくない場合は、次の手順にしたがって自動挿入の設定解除を行なってください。

- ① [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] をクリックし、[システム] アイコンをダブルクリックする
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。
- ② [デバイスマネージャ] タブで [CD-ROM] の左の  をクリックする
- ③ 表示されたドライブ名をクリックする
- ④ [プロパティ] ボタンをクリックする
- ⑤ [設定] タブで [挿入の自動通知] のチェックをはずす
- ⑥ [OK] ボタンをクリックする
[システムのプロパティ] 画面を閉じて、再起動すると、自動挿入の設定が解除されます。

アプリケーションの選択と起動

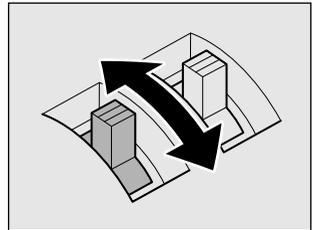
アプリケーションの選択、起動はナビパネルの右側にあるジョグボタンで行います。



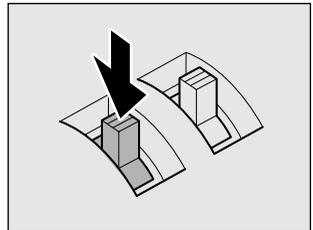
- 1** ジョグボタンを上または下に回す
 ジョグボタンを回すたびに、次のようにナビパネルの表示が切り替わります（標準）。

CD/DVD*	↔	デジタルオーディオ
↑↓		↑↓
インターネット	←→	メール

* CD-R/RW モデルでは [CD] と表示されます。



- 2** 起動したいアプリケーションが表示されたら、ジョグボタンを押す
 アプリケーションが起動します。



ジョグボタンを押したときに起動するアプリケーションは次のとおりです。

ナビパネルの表示	起動するアプリケーション	備考
CD/DVD*	LIVE MEDIA PLAYER	マルチドライブモデルの場合、ディスクトレイにDVDが入っているときは「InterVideo WinDVD」が起動します。
デジタルオーディオ	LIVE MEDIA PLAYER	
メール	標準として設定したメールアプリケーション	出荷時は設定されていません。
インターネット	標準として設定したインターネットブラウザ	出荷時は設定されていません。

* CD-R/RW モデルでは [CD] と表示されます。

 アプリケーションの変更や追加について ⇨ 「本節 東芝サービス」

ナビパネルに表示される文字列

ナビパネルには、全角 20 文字（半角 40 文字以内）以内の文字列が表示できます。半角文字には数字とアルファベットが使用できます。表示される内容は次のとおりです。

ナビパネルの表示	内容
タイトル	<p>ジョグボタンでアプリケーションを選択、起動するときに表示される文字列です。 パソコンが次の状態のときに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っているとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき <p>「LIVE MEDIA PLAYER」や「TOSHIBA Audio Manager」の起動中は、音楽CDや音楽ファイルの情報が表示されます。</p>
新着メール数	<p>パソコンは次の状態のときに新着メール数が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っていて、メールアプリケーションが起動していないとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき
登録した文字列	<p>アプリケーションが起動されていないときに表示される文字列です。 パソコンが次の状態のときに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っているとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき <p>「東芝サービス」であらかじめ文字列を登録できます。</p>
メッセージ	<p>システムメッセージ（ローバッテリーなど）やアプリケーションのメッセージが表示されます。 また、パスワードを設定している場合は、電源を入れたときに、「Password=」と表示されます。 パソコンの電源が入っているときに表示されます。</p>

 文字列の登録について ⇨ 「本節 東芝サービス」

東芝サービス

「東芝サービス」でナビパネルの設定ができます。設定できるのは次のとおりです。

- ・バックライトの色
- ・アプリケーションが起動されていないときに表示される文字列とその書式
- ・ジョグボタンを使って起動するアプリケーションの変更や追加

1 [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] をクリックする

2 [東芝サービス] () アイコンをダブルクリックする
[東芝サービスのプロパティ] 画面が表示されます。

3 それぞれのタブで設定し、[OK] ボタンをクリックする

[全般タブ]

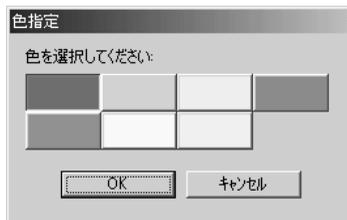


色指定

ナビパネルのバックライトの色を選択できます。

1 [色] ボタンをクリックする

[色指定] 画面が表示されます。



2 色を選択して、[OK] ボタンをクリックする

[テスト] ボタンをクリックすると、バックライトが点灯します。

ステータス表示 (オーナーズトリング)

アプリケーションが起動されていないときに表示される文字列を設定できます。

1 [ステータス表示する] を選択する

2 メッセージを入力する

メッセージは 1 行目と 2 行目に分けて入力してください。

各行に入力できる文字数は全角 20 文字（半角 40 文字）です。

半角文字には数字とアルファベットが使用できます。

JIS 第一、第二水準漢字、JIS 非漢字をサポートしています。外字はサポートしていません。

3 [OK] ボタンをクリックする

- メモ ● [ステータス表示する] を選択すると、[設定] ボタンをクリックできるようになります。[設定] ボタンをクリックすると、[新着メールチェックのスケジュール設定] 画面が表示されます。

参照 新着メールチェックについて

⇒ 『クリエイティブブック 3 章 4 新着メールをナビパネルで確認する』

[アプリケーション] タブ



コンソール

ジョグボタンで [CD / DVD] [デジタルオーディオ] を選択したときに起動するアプリケーションを変更します。

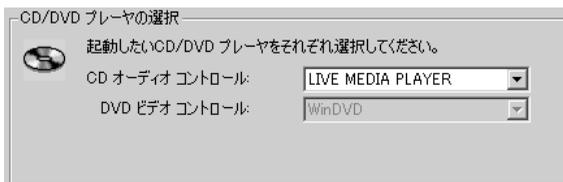
* DVD を使用できるのはマルチドライブモデルのみです。

CD-R/RW モデルでは使用できません。

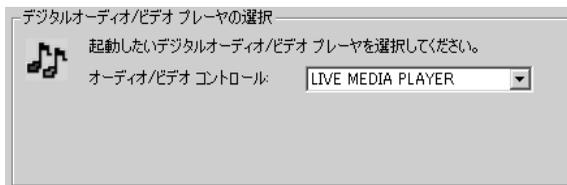
1 [CD / DVD] または [デジタルオーディオ] ボタンをクリックする

[CD / DVD プレーヤの選択] または [デジタルオーディオ / ビデオプレーヤ] 画面が表示されます。

[CD / DVD プレーヤの選択] 画面



[デジタルオーディオ/ビデオプレーヤ] 画面



- 2 アプリケーションを選択して、[OK] ボタンをクリックする
 選択できるのは次のアプリケーションです。

CD/DVD	LIVE MEDIA PLAYER Windows Media Player
デジタルオーディオ	LIVE MEDIA PLAYER TOSHIBA Audio Manager Windows Media Player

- メモ** ● [ユーザ登録 1] ~ [ユーザ登録 3] をチェックすると (☑)、
 チェックしたボタンがアクティブになり、好きなアプリケーションを登録することができます。登録したいボタンをクリックし、
 表示される画面に従って設定してください。

【拡張】 タブ



ナビパネルの書式

ナビパネルに表示される文字の書式を設定できます。
設定する項目をチェックします。

[フォントを丸文字にする] : 表示される文字の書体が丸文字で表示されます。

[反転表示にする] : 文字が反転表示されます。

ジョグボタンの誤動作防止機能

本製品を持ち運ぶ場合、誤ってジョグボタンが押されると、アプリケーションが起動してしまう可能性があります。そこで、ジョグボタンを一時的に機能しないようにする「誤動作防止機能」があります。なお、ジョグボタンの誤動作防止機能はパソコンの電源が切れている場合のみ使用できます。

誤動作防止機能の使用	ボリュームを下側に4秒以上回す
誤動作防止機能の解除	ボリュームを上側に4秒以上回す

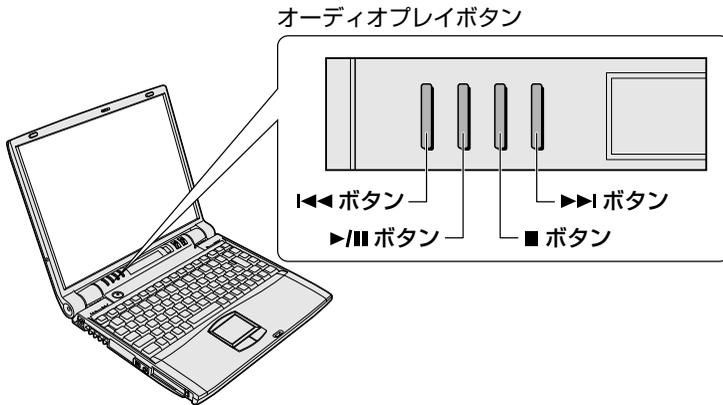
誤動作防止機能の使用中は、ナビパネルに「誤動作防止中」と表示されます。

3

オーディオプレイボタン

「CD / DVD *」「デジタルオーディオ」「インターネット」のアプリケーションを起動しているときに、オーディオプレイボタンで操作できます。ただし、オーディオプレイボタンで操作するアプリケーション（例：LIVE MEDIA PLAYER）とナビパネルの表示（例：CD / DVD *）が対応していないと操作できません。

* CD-R/RW モデルでは [CD] と表示されます。



「CD / DVD *」「デジタルオーディオ」アプリケーション起動時

◀◀ ボタン	1つ前のトラックに戻ります。 再生中に押すと、曲の頭に戻ります。
▶ ボタン	再生します。 再生中にボタンを押すと一時停止します。 一時停止を解除するときはもう1度ボタンを押します。
■ ボタン	再生を停止します。
▶▶ ボタン	1つ先のトラックに進みます。

「インターネット」ブラウザ起動時

◀◀ ボタン	1つ前の画面に戻ります。
▶ ボタン	ホームページの最新の画面を読み込みます。
■ ボタン	ホームページの読み込みを中断します。
▶▶ ボタン	1つ先の画面に進みます。

4

タッチパッド

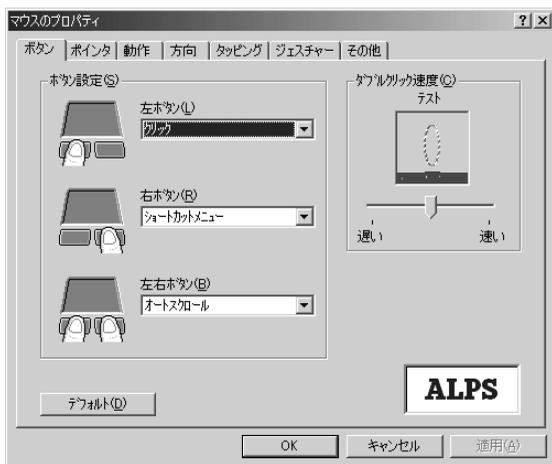
タッチパッドや右ボタン／左ボタンはお好みに応じて、使いやすく設定できます。本節では、お使いになると便利な機能を紹介します。

【マウスのプロパティ】画面での設定方法

設定は【マウスのプロパティ】画面で行います。

1 タスクバーの【タッチパッド】() アイコンをダブルクリックする

画面が表示されます。



2 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする

各機能の設定については、本節以降の説明をご覧ください。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。



- 【マウスのプロパティ】画面は、[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] をクリックし、[マウス] アイコンをダブルクリックしても表示できます。

ヘルプの起動方法

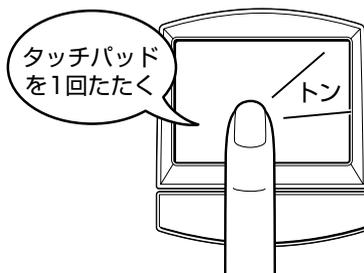
- 1 [マウスのプロパティ] 画面を表示し、画面右上の **?** をクリックする
マウスポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

タッピング機能

[タッピング] タブで設定します。
タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

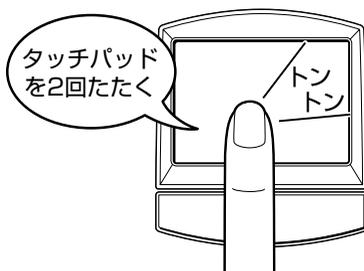
クリックする

タッチパッドを1回軽くたたきます。



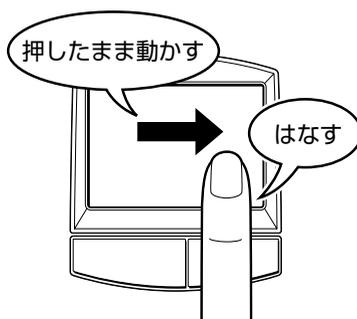
ダブルクリックする

タッチパッドを2回軽くたたきます。



ドラッグアンドドロップする

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。



タッピング機能の各項目について説明します。



[タッピング]

チェックする () と、タッピング機能が使用できます。

ご購入時はチェックされています。

続けてタッピングするときの速度は、スライダーバーを動かして調節します。

【ドラッグロックの設定】

タッピングでドラッグした場合、指を離してもドラッグ状態を保ちたい場合は、[ドラッグロック]をチェックします。

ドラッグ状態を解除する方法を次の中から選択します。

[自動解除] : ある一定時間経ったらドラッグ状態を解除します。
 時間はスライダーバーを動かして調節できます。

[タッピング又はクリックで解除] : タッピング（1回たたく）またはクリックの動作でドラッグ状態を解除します。

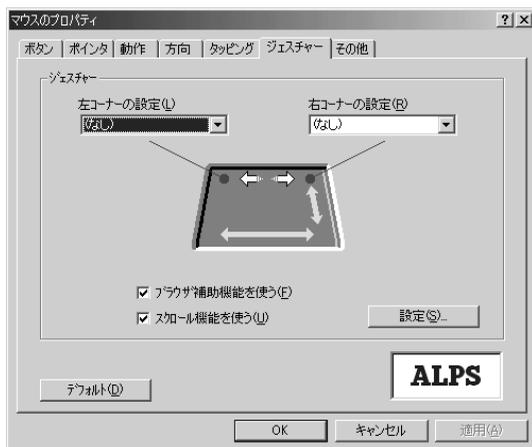
【キー入力時タップしない】

タッピング機能を設定していても、キーボードから文字を入力している間はタッピング機能が効かないようにします。この項目をチェックすると、入力中に意図しない場所をクリックしてしまうのを防ぐことができます。

タッピング機能を便利に使う

[ジェスチャー] タブで設定します。

タッチパッドの右上、左上をタッピングしたときの動作や、スクロール機能を設定しておくことができます。



[左コーナーの設定] [右コーナーの設定]

タッチパッドの左上、右上をタッピングしたときの動作を設定できます。

なし	設定しません。
ショートカットメニュー	右クリックや  キーを押したときと同じ動作をします。
オートスクロール	マウスポインタが  アイコンになります。このアイコンを中心にしてスクロールしたい方向にマウスポインタを移動すると  (表示例：下の場合) が表示され、自動的にその方向の端までスクロールします。
イージーランチャー	イージーランチャー画面を表示します。 ☞ 「本節 その他の機能を使う」
イージーキャプチャー	イージーキャプチャー画面を表示します。 ☞ 「本節 その他の機能を使う」

[ブラウザ補助機能] を使う

タッチパッドの上端に指を合わせて左右に動かしたときに、ブラウザの「進む」「戻る」の動作を行うときはチェックします。

[スクロール機能を使う]

タッチパッドの右端、下端に指を合わせて上下または左右に動かしたときに、スクロール機能を使用するときはチェックします。

その他の機能を使う

[その他] タブで設定します。



[サウンドフィードバック]

タッチパッドの操作に合わせてサウンドを鳴らす場合は、[使用する] をチェックします。

[設定] ボタンをクリックすると、[サウンドとマルチメディアのプロパティ] 画面が表示されます。

「Alps Pointing Device Driver」の各場面のサウンド設定を行なってください。



[トレイアイコン]

タスクバーに [タッチパッド] アイコン () を表示する場合は、 [タスクバーにアイコンを表示する] をチェックします。

[IME キャプチャー]

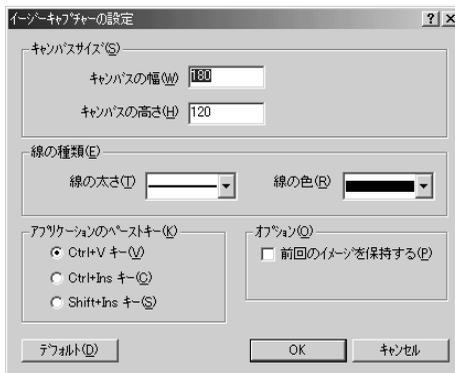
タッチパッドを IME パッドの手書き入力エリアとして使用する場合は、 [使用する] をチェックします。

使用中は、マウスポインタが羽に変わります。使用中に右クリックすると入力エリアがクリアされ、左クリックすると使用が解除されます。

[イージーキャプチャーの設定]

イージーキャプチャー機能とは、ペイントを起動せずに簡単な絵を描いて、起動中のアプリケーションに貼り付ける機能です。

イージーキャプチャー機能を使用する場合は、あらかじめ [ジェスチャー] タブの [左コーナーの設定] または [右コーナーの設定] で [イージーキャプチャー] を指定しておきます。



- [キャンパスサイズ] : イージーキャプチャーで使用するキャンパスのサイズを指定します。
- [線の種類] : イージーキャプチャーで使用する線の太さと色を指定します。
- [アプリケーションのペーストキー] : イージーキャプチャーで描いた絵を貼り付ける場合のショートカットキーを指定します。
- [オプション] : 次回イージーキャプチャーを起動したときに前回のイメージを保持する場合はチェックします。

【イージーランチャーの設定】

イージーランチャー機能とは、【イージーランチャー】画面のボタンをクリックするだけで、「最小化」「閉じる」などの操作を実行したり、登録したアプリケーションやファイルを起動できる機能です。



イージーランチャー機能を使用する場合は、タスクバーの【タッチパッド】（) アイコンを右クリックし、表示されるメニューから【イージーランチャー】をクリックします。または、あらかじめ【ジェスチャー】タブの【左コーナーの設定】または【右コーナーの設定】で「イージーランチャー」を指定しておきます。



- 【ショートカットの登録】：【追加】ボタンをクリックし、登録したいアプリケーションやファイルを指定します。
- 【レイアウト】：【イージーランチャー】画面の表示位置とアプリケーションアイコンの大きさを指定します。
- 【その他の機能】：【イージーランチャー】画面に「タイトルバー」「ツールヒント」「閉じるボタン」を表示するかを指定します。

5

ディスプレイ

本製品では TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1024 × 768 ドット）を採用しています。

カラー液晶ディスプレイの機能について説明します。

表示について

- TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られていますが、一部に表示不良画素（欠け・常時点灯など）が存在することがあります。これらの表示不良画素は、少量に抑えるように管理していますが、現在の最先端の技術でも表示不良画素をなくすことは困難ですので、ご了承ください。

表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

解像度とは、ディスプレイの画面表示の精細さを表す尺度のことです。画面に表示できるドット数を横の数×縦の数で表します。

1600 × 1200ドット	65,536色
1280 × 1024ドット	65,536色
1024 × 768ドット	1,677万色
800 × 600ドット	1,677万色
640 × 480ドット	1,677万色

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

仮想スクリーン表示とは、表示可能な解像度よりも大きい解像度を表示する画面のことです。仮想スクリーン表示では、全体の画面の一部が表示されるので、必要に応じて画面をスクロールします。



- 1,677万色はディザリング表示です。

ディザリングとは、1ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色の階調を数ピクセル組み合わせによって表示することです。

輝度設定

ディスプレイの輝度（明るさ）を調節できます。

(Fn)キーを押しながら、(↑)キーまたは(↓)キーを押します。

-  ● パソコンの駆動方法（バッテリーまたは AC アダプタ）を変更すると、輝度設定は、省電力設定ユーティリティで設定された値に戻ります。

6

ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブは、本体に内蔵されています。取りはずしはできません。

ハードディスクドライブについては、『パソコンの基本 1 章 1-3 記憶装置』をご覧ください。

ハードディスクドライブに関する表示

ハードディスクとデータをやり取りしているときは、ハードディスクアイコンが点灯します。



- ハードディスクアイコンが点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。

ハードディスクに記録された内容は故障や損害の原因にかかわらず保証いたしかねますので、ご了承ください。
万一故障した場合に備え、バックアップを取ることをおすすめします。



バックアップについて ⇨ 「本章 9-3 バックアップ」



- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起ったり、変化／消失した場合に備えて、定期的に CD-R などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスクや CD-R などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。
- 磁石、スピーカなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

7

サウンド機能

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカを用意しています。

1 スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。サウンド機能は Microsoft Windows Sound System に適合しています。スピーカの音量調整は、ボリューム、または Windows の「ボリュームコントロール」を使用します。



- Windows の起動中または終了処理中は、音量の調整や消音は行わないでください。音量の調整が有効にならない場合があります。

ボリュームで調整する

本体前面のボリュームで音量を調整します。

音量を大きくしたいときには上に、小さくしたいときには下に回します。

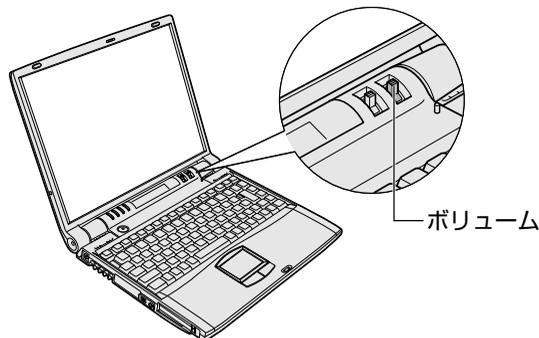
ボリュームを押すと、消音 (Mute) になります。

ナビパネルの音量表示の下に [Mute] と表示されます。

もう 1 度ボリュームを押すと、消音は解除されます。



- Windows の起動中または終了処理中に、ボリュームの操作を行わないでください。エラーが発生して正常に動作しない場合や、正常に終了しない場合があります。ボリュームの操作は、Windows が起動した後に行なってください。

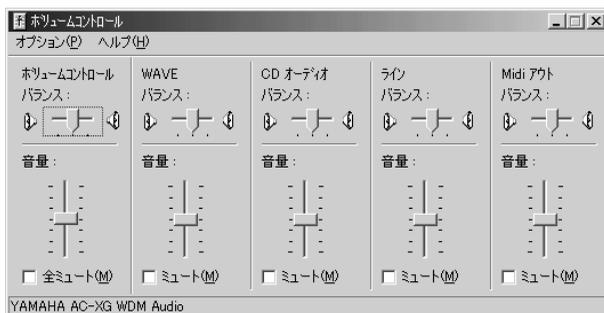


ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

- 1 タスクバー上の [音量] アイコン () をダブルクリックする、または [スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

[ボリュームコントロール] 画面が表示されます。



(表示例)

- 2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。

音楽／音声を再生するとき

[ボリュームコントロール] の各項目では次の音量が調整できます。

[ボリュームコントロール] : すべての音量を調整する

[WAVE] : MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD (Windows Media Player の場合) など

[CD オーディオ] : 音楽 CD

[ライン] : LINE OUT 端子から出力される音声

[Midi アウト] : MIDI ファイル

また、お使いのアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』をご覧ください。

[音量] アイコンから調整する

- 1 タスクバー上の [音量] アイコン (🔊) をクリックする
次の画面が表示されます。



- 2 つまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると、消音になります。

使用するアプリケーションによっては、外部マイクとスピーカでハウリングを起こし、高く大きな音が発生することがあります。この場合は、次のようにしてください。

- 本製品のボリュームで音量を調整する
- 使用しているアプリケーションの設定を変える
- 外部マイクをスピーカから離す

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

パソコン上で録音するとき

- 1 タスクバーの [音量] アイコンをダブルクリックする、または [スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] をチェックする
[ステレオアウト] [マイクロフォン] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [レコーディングコントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[ステレオアウト] : MP3 ファイル、Wave ファイル、MIDI ファイル、音楽 CD などを録音するとき
[マイクロフォン] : 外部マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する

 ● 同時に2つのデバイスを選択することはできません。

光デジタルオーディオ出力端子経由で録音するとき

光デジタルオーディオ出力端子経由で録音する場合は、「ボリュームコントロール」の [WAVE] や [Midi アウト] など、各ソース用のコントロールで再生している音量を調節します。

 ● 音量を最低にしたり、ミュート（消音）にすると、光データは出力されません。

 参照  ボリュームコントロールについて ⇨ 「本節 1 スピーカの音量を調整する」

8

バッテリー

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。

ご購入時は、バッテリーはフル充電されていませんので、本製品を初めてお使いになるときは、バッテリーを充電してからお使いください。

本製品のマニュアル『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックをお使いになるときに守っていただきたい重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよくお読みになり、必ず指示をお守りください。

 『安心してお使いいただくために バッテリーパックの取り扱いについて』

警告

- ・バッテリーパックの使用時、充電中、保管時に異臭・発熱・変色・変形など異常が発生した場合は、すぐにパソコン本体から取りはずしてください。
- ・バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー（TOSHIBA バッテリーパック：PABAS006）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発煙、火災のおそれがあります。

⚠ 注意

- ・ バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- ・ 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常と思われるときは使用しないでください。お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・ バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）を使いきってしまうと、スタンバイ機能が効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- ・ バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイ機能を実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- ・ 本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って途中で作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。バッテリー充電量を確認するには、次の方法があります。

ナビパネルのバッテリーアイコンで確認する

次のマークが、バッテリーの状態を示すアイコンです。



- メモ** ● バッテリーアイコンの残量表示は、概算によるものです。パソコンの使用状況によっては、実際の残り時間が異なることがあります。

バッテリーアイコンは次の状態を示します。

バッテリーアイコンの状態	バッテリーの状態
	バッテリーは十分に充電されています。
	バッテリーは充電されていますが、バッテリー残量に注意してお使いください。
	充電が必要です。
	すぐに充電が必要です。

タスクバーの [省電力] アイコンで確認する

タスクバーの [省電力] アイコン () の上にマウスポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。

● AC アダプタを接続している場合



● バッテリー駆動の場合



-  ● タスクバーに表示される [省電力] アイコン () の色は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- 東芝省電力ユーティリティ ([コントロールパネル] → [東芝省電力]) の [電源設定] タブの設定内容によっては、タスクバーに [省電力] アイコンが表示されません。表示させたいときは、[電源設定] タブで [タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックしてください。

バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

● [バッテリー残量低下] 画面が表示される



● ナビパネルに警告が表示される

上記のような警告が起こった場合は、ただちに次のいずれかの対処を実行してください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

出荷時の設定では、対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

-  ●長時間使用しないで自然に放電しきってしまったときは、バッテリーアイコンでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、AC アダプタを接続しているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

充電完了までの時間

状態	充電時間
電源ON	約24時間
電源OFF	ほとんど充電しない

-  ●時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning (警告) メッセージが出ます。

2 バッテリーを充電する

ここでは、充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

AC アダプタ  アイコンが点灯すると、充電が開始されます。パソコン本体に AC アダプタを接続すると、電源の ON/OFF に関わらず常時充電されます。

2 バッテリーアイコンの枠の中が点滅しなくなるまで充電する

バッテリーの充電が完了すると、 へ変わります。AC アダプタ  アイコンが消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。



- バッテリーパックが極端に熱いか冷えていると、正常に充電されないことがあります。バッテリーを充電するには、10～30℃の室温で充電してください。

充電時間

フル充電になるまでの充電時間の目安は次のとおりです。

状態	充電時間
電源ON	約2～7時間
電源OFF	約2時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。

使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。

次の時間は目安にしてください。

充電完了の状態で使用した場合

省電力モード	動作時間
フルパワー (*1)	約1時間30分 (*2)

* 1 モニター輝度、CPU 処理速度とも最大の設定

* 2 BatteryMark4.0.1 で計測

使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。この場合も放置環境などに左右されますので、保持時間は、目安にしてください。

フル充電した状態で電源を切った場合

パソコン本体の状態	保持時間
スタンバイ	約4日間
電源OFFまたは休止状態	約20日間

バッテリーを節約する

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

 休止状態 ⇨ 『パソコンの基本 2章 3 パソコンの使用を中断する』

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

- 省電力モードに設定する

 省電力設定 ⇨ 「本節 4 省電力ユーティリティを使う」

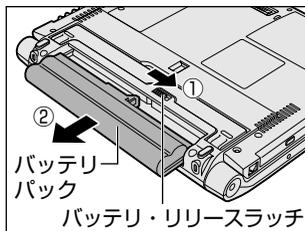
3 バッテリーパックを交換する



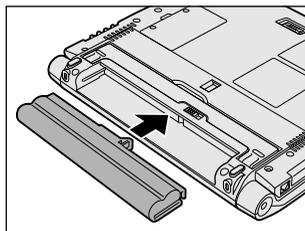
- バッテリーパックの取り付け/取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。

取り付け/取りはずし

- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 [スタート] → [Windows の終了] をクリックする
- 3 [終了] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
Windows を終了して電源が切れます。
- 4 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 5 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 6 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら、バッテリーパックを取りはずす
ゆっくり、力強く引いてください。



- 7 交換するバッテリーパックを、カチッという音がするまで、静かに差し込む



4 省電力ユーティリティを使う

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らすこと（ディスプレイの明るさを抑えるなど）で、より長い時間お使いいただけます。ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

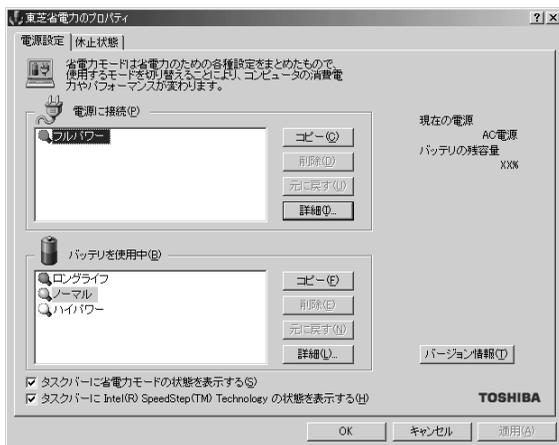
起動方法

- 1 [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] をクリックし、[東芝省電力] アイコン () をダブルクリックする

-  ● [コントロールパネル] 画面に [東芝省電力] アイコンが表示されていない場合は、画面左の [すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。] をクリックしてください。

[電源設定] タブ

画面の表示例は、インテル® SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルの画面です。



(表示例)

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

[電源に接続] [バッテリーを使用中] には、設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用になる省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] は AC アダプタに接続している／していないによって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

●フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、[電源に接続]（AC アダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。

●ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

●ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中]（バッテリー駆動で使用するとき）がこのモードに設定されています。

●ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

省電力モードの作成

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[～のコピー] という省電力モードができます。

- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

 省電力モードの詳細設定 ⇨ 「本項 省電力モードの詳細設定」

省電力モードの削除

- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする
 [元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

タスクバーに省電力モードの状態を表示する

ここをチェックする（）と現在の省電力モードを示す省電力アイコンがタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。

省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンを右クリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを開くことができます。

タスクバーに Intel(R) Speed Step(TM) Technology の状態を表示する

インテル® SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ表示されます。

ここをチェックする（）と現在のCPU周波数（インテル® SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサ）の状態を示すアイコンがタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。

CPU周波数アイコンを表示させておくと、そのアイコンをクリックすることにより、CPU周波数を変更することができます。

-  ● CPU周波数アイコンで周波数の切り替えを行うには、ACアダプタを接続している必要があります。
 バッテリ駆動の場合は、チェックしてもCPU周波数アイコンは表示されません。

【休止状態】 タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。



省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

起動方法

- ① [電源設定] タブで利用したい省電力モード（フルパワー、ロングライフ、ノーマル、ハイパワー）を選択し、[詳細] ボタンをクリックする
次の画面が表示されます。



(表示例)

[全般] タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

[省電力] タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

[動作] タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

●スタンバイ

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。スタンバイ機能を実行するとすばやく状態が再現されますが、休止状態にしたときよりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失しますので、スタンバイ機能を実行する場合は、ACアダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

次のような場合はスタンバイ機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

- ・ 誤った使いかたをしたとき
- ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- ・ バッテリーが消耗したとき
- ・ 故障、修理、電池交換のとき
- ・ バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき

●休止状態

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテ

リ充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。

●電源オフ

Windows を終了して電源を切ります。

●スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める

ここをチェックする () と、Windows のパスワードを設定している場合には、スタンバイ状態や休止状態から復活するときに Windows パスワードが要求されます。



- ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。



- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。ハードディスク  アイコンが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け/取りはずしをすると、休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

[アラーム] タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作やプログラムを設定します。

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリーを使用中] に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

省電力ユーティリティの操作方法を知りたいとき (ヘルプの起動)

- 1 [東芝省電力ユーティリティ] を起動後、[東芝省電力のプロパティ] 画面右上の  をクリックする
マウスポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にマウスポインタを置き、クリックする

9

CD / DVD

本製品にはモデルによって、マルチドライブまたはCD-R/RWドライブが内蔵されています。マルチドライブはCD-R/RWドライブとDVD-ROMドライブ両方の機能を持ちます。

CD-ROM / CD-R/RW / DVD-ROMについては『パソコンの基本 1章 1-3 記憶装置』をご覧ください。

本製品のマニュアル『安心してお使いいただくために』に、CD / DVDをお使いになるときに守っていただきたいことが記述されています。

CD / DVDをお使いになる場合は、あらかじめその記述を良くお読みになり、必ず指示をお守りください。

 『安心してお使いいただくために CD / DVD の取り扱いについて』

*DVDを使用できるのはマルチドライブモデルのみです。
CD-R/RWモデルでは使用できません。

⚠ 注意

- ・ ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。マルチドライブまたはCD-R/RWドライブの故障の原因になります。
- ・ 光ディスク  アイコンが点灯しているときは、イジェクトボタンを押ししたり、CD / DVD を取り出す操作をしないでください。CD / DVD が傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- ・ 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD / DVD のデータやマルチドライブまたはCD-R/RWドライブが壊れるおそれがあります。
- ・ マルチドライブまたはCD-R/RWドライブのトレイを開けたときに、CD / DVD が回転している場合には、停止するまでCD / DVD に手を触れないでください。ケガのおそれがあります。
- ・ マルチドライブまたはCD-R/RWドライブは開けたままにしないでください。ケガのおそれやマルチドライブまたはCD-R/RWドライブの故障の原因となります。



- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。また市販のクリーナを使用しないでください。マルチドライブまたはCD-R/RWドライブの故障の原因となります。
- マルチドライブまたはCD-R/RWドライブに保守・修理が必要になった場合には、お近くの保守サービスにご相談ください。



イジェクトホールについて

☞ 「本節 2- ディスクトレイが出てこない場合」

1 CD/DVD

使用できる CD

読み込みできる CD は、次の種類です。

- ① 音楽用 CD
8cm または 12cm の音楽用 CD が聴けます。
- ② フォト CD
- ③ CD-ROM
使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのものが使用できます。
- ④ CD エクストラ
- ⑤ CD-R
- ⑥ CD-RW

書き込みできる CD は次の種類です。

- ① CD-RW
- ② CD-R (書き込みは 1 回限り)

CD-RW メディアに書き込む際には、1 / 2 / 4 倍速対応 (マルチスピード) CD-RW メディアをご使用ください。

ハイスピード対応のメディアへの書き込みには対応していません。

使用できる DVD

* DVD ができるのはマルチドライブモデルのみです。

読み込みできる DVD は、次の種類です。

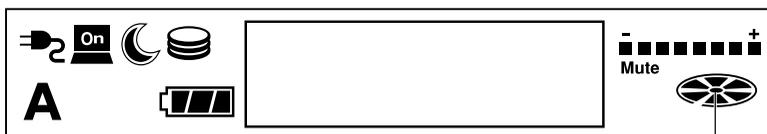
- ① DVD-ROM
- ② DVD-Video



- DVD-Video 再生時は、AC アダプタを接続した状態でご使用になることをおすすめします。
また、使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。

マルチドライブまたは CD-R/RW ドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、マルチドライブまたは CD-R/RW ドライブが動作しているときは、光ディスク  アイコンが点灯します。



光ディスクアイコン

2 CD/DVDのセットと取り出し

CD/DVDは、電源が入っているときにセット/取り出しができます。

*イジェクトボタンやディスクトレイLEDの位置は、ご購入のモデルによって異なります。



次の場合は、ディスクトレイはイジェクトボタンを押しても出てこない、またはすぐには出てきません。

- 電源を入れた直後
- リセットした直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 光ディスク  アイコンが点灯しているとき

これらの場合には、ディスクトレイLEDの点滅が終了したことを確認してから、イジェクトボタンを押してください。



- パソコン本体を持ち運ぶときは、マルチドライブまたはCD-R/RWドライブにCD/DVDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。

CD / DVD のセット

CD / DVD をセットするには、次のように行います。

1 パソコン本体の電源を入れる

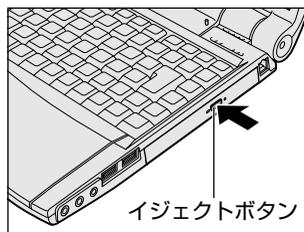
パソコン本体の電源を入れずに使用する場合

- ① ジョグボタンを上または下に回す
- ② ナビパネルに [CD / DVD *] と表示されたら、ジョグボタンを押す

* CD-R/RW モデルでは [CD] と表示されます。

2 イジェクトボタンを押す

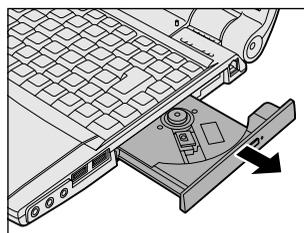
イジェクトボタンを押したら、ボタンから手を離してください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。



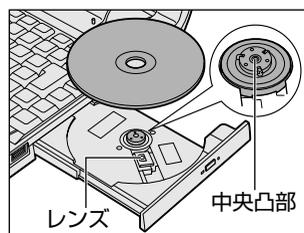
- メモ** ● 電源が入っていないと、イジェクトボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。

3 ディスクトレイを引き出す

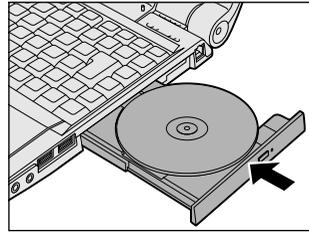
CD / DVD をのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。



- ### 4 文字が書いてある面を上にして、CD / DVD の穴の部分をディスクトレイの中央凸部分に合わせ、上から押さえてセットする
- カチッと音がして、セットされていることを確認してください。



5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



- CD / DVD をディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD / DVD を正しくディスクトレイにセットしないと CD / DVD を傷つけることがあります。



- 傷ついたり汚れのひどい CD / DVD の場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れを拭きとってから再生してください。
- CD / DVD の特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合もあります。

CD / DVD の取り出し

1 パソコン本体の電源を入れる

パソコン本体の電源を入れずに使用する場合

- ① ジョグボタンを上または下に回す
- ② ナビパネルに [CD / DVD *] と表示されたら、ジョグボタンを押す

* CD-R/RW モデルでは [CD] と表示されます。

2 イジェクトボタンを押す

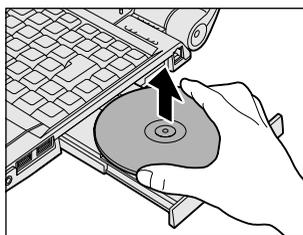
ディスクトレイが少し出てきます。

3 ディスクトレイを引き出す

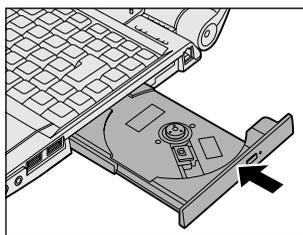
CD / DVD をのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 CD / DVD の両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す

CD / DVD を取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

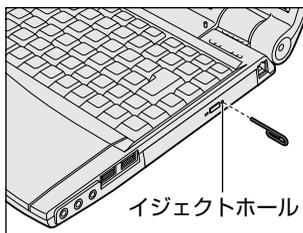


5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



ディスクトレイが出てこない場合

電源を切っているときにイジェクトボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。故障などで電源が入らない場合は、マルチドライブまたはCD-R/RWドライブのイジェクトホールを、先の細い、丈夫なもの（例えば、クリップを伸ばしたもの）で押してください。ディスクトレイが出てきます。



*イジェクトホールの位置はご購入のモデルによって異なります。



- 電源を入れ、マルチドライブまたはCD-R/RWドライブのディスクトレイLEDが点滅しなくなったことを確認してから、マルチドライブまたはCD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押してください。点滅しなくなったことを確認しないと、ディスクトレイが出てこない場合があります。

3 バックアップ

本製品のCD-R/RWドライブまたはマルチドライブを使用して、CD-RW、CD-Rにデータをバックアップすることができます。バックアップするには、Adaptec社製「Direct CD」を使用します。

インストール方法

「Direct CD」はあらかじめ本製品にはインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

- 1 デスクトップ上の [CD-RWライティングソフトのセットアップ] アイコン () をダブルクリックする
- 2 画面の指示に従って「Direct CD」をインストールする
- 3 再起動する

CD-RW、CD-Rに書き込む前に

CD-RW、CD-Rに書き込みを行うときは、次のご注意をよくお読みのうえご使用ください。

守らずにご使用になると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ご使用のパソコンの設定によっては、書き込みに失敗することがあります。

書き込みに失敗したCD-Rの損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD-RW、CD-Rに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- CD-RWメディアに書き込む際には、1 / 2 / 4 倍速対応（マルチスピード）CD-RWメディアをご使用ください。
ハイスピード対応のメディアへの書き込みには対応していません。

- 次のメーカーの CD-RW、CD-R をご使用になることをおすすめします。
 CD-RW : 三菱化学 (株)、リコー (株)
 CD-R : 太陽誘電 (株)、TDK (株)、三井化学 (株)、三菱化学 (株)、
 リコー (株)、日立マクセル (株)
 上記以外のメーカーの CD-RW、CD-R をご使用になると、うまく書き込みができない場合があります。
- 必ず AC アダプタを接続して電源コンセントに接続してください。
 バッテリ駆動で使用しながら書き込みを行うと、バッテリーの消耗などにより書き込みに失敗するおそれがあります。
- スクリーンセーバなど CPU に負担のかかるソフトウェアは動作しないように設定してください。
- ウィルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。
- 常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことをおすすめします。
- 「DirectCD」「Easy CD Creator」以外の CD-RW、CD-R 書き込み用ソフトウェアは動作保証しておりません。
- 書き込みを行なう際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。

 省電力機能について ⇨ 「本章 8-4 省電力ユーティリティを使う」

- 書き込み用ソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。

 ● CD-R に書き込みできるのは 1 回限りです。書き込みに失敗した CD-R は再利用できませんが、CD-RW はフォーマットすると再利用できます。

書き込み／削除を行うときは

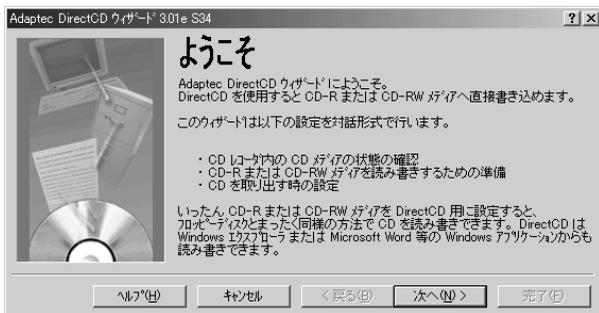
- タッチパッドを動かす、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行なわないでください。
- モデムなど、通信アプリケーションを起動しないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行なわないでください。
 PC カード、USB 対応機器、i.LINK 対応機器、光デジタル対応機器

CDのフォーマット

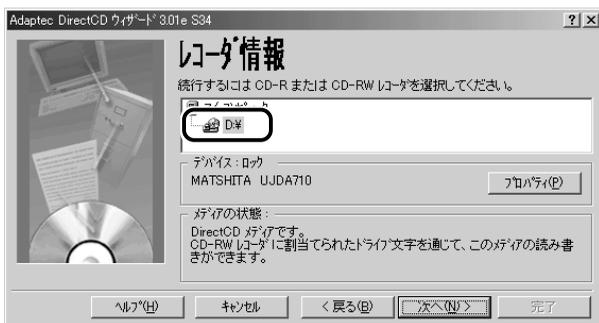
バックアップを行うには、CD-RWまたは未使用のCD-Rを用意します。CDに初めてデータを書き込む場合は、最初にCDをDirectCD用にフォーマットする必要があります。

DirectCD用にフォーマットされたCDは、DirectCDがインストールされているパソコンでのみご利用になれます。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [Adaptec Direct CD] → [DirectCD ウィザード] をクリックする
[よろこそ] 画面が表示されます。



- 2 [次へ] ボタンをクリックする
[レコーダ情報] 画面が表示されます。
[D:¥] が選択されていることを確認してください。



(表示例)

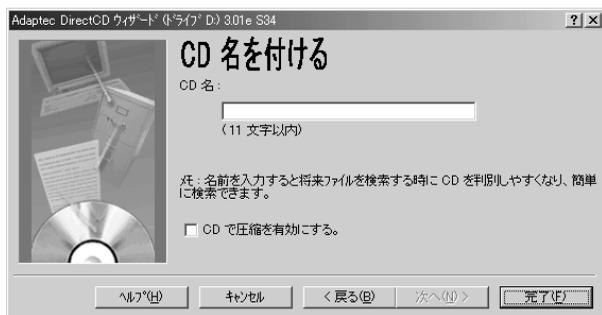
3 [次へ] ボタンをクリックする

[CD のフォーマット] 画面が表示されます。



4 [次へ] ボタンをクリックする

[CD 名を付ける] 画面が表示されます。



5 CD 名を入力して、[次へ] ボタンをクリックする

CD 名は 11 文字まで入力できます。

CD-RW を使用し、データを圧縮する場合は、[CD で圧縮を有効にする。] にチェックします。

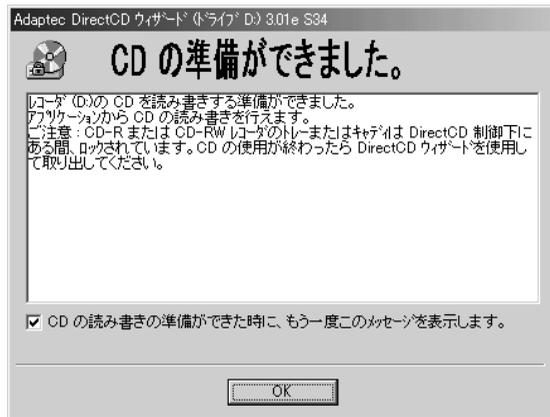
6 [完了] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



7 [OK] ボタンをクリックする

CDのフォーマットが開始されます。フォーマットには数分かかります。
フォーマットが完了すると、次の画面が表示されます。

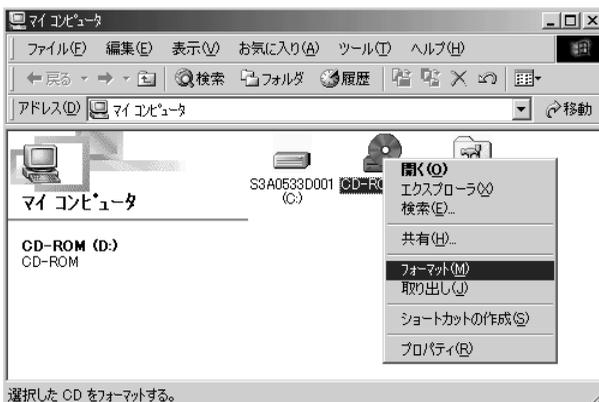


8 [OK] ボタンをクリックする

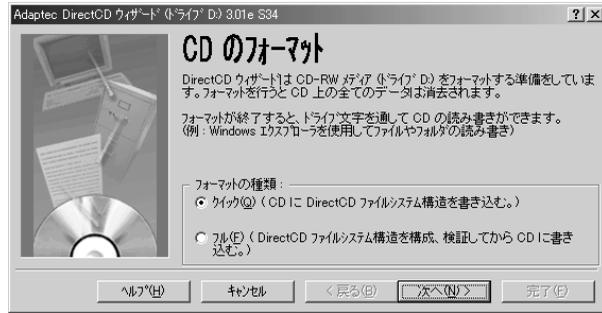
フォーマット済み CD のフォーマット

すでに1度フォーマットされているCD-RWをDirectCD用にフォーマットする場合は、「クイックフォーマット」または「通常のフォーマット」が選択できます。

1 マイコンピュータのCD-ROM (D:) を右クリックし、表示されたメニューから [フォーマット] をクリックする



[CD フォーマット] 画面が表示されます。



2 [クイック] または [フル] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

この後の手順は「CD のフォーマット」と同じです。
「CD のフォーマット」の手順 4 に進んでください。

CD へのデータの書き込み

CD を DirectCD 用にフォーマットすると、データを書き込むことができます。

データを書き込むには次の方法があります。

- Windows エクスプローラで、コピーしたいファイルやフォルダを選択し、(D:) ドライブヘドラッグアンドドロップする
- 各アプリケーションで [ファイル] メニュー → [名前を付けて保存] を選択し、(D:) ドライブへ保存する
- コピーしたいファイルやフォルダを右クリックし、表示されたメニューの [送る] にマウスポインタをあわせる
表示されたメニューの [DirectCD ドライブ (D)] をクリックする

書き込みを行うとき

バックアップをとる場合、重要なファイルは、パソコンのハードディスクから直接移動せず、コピーして CD-RW、CD-R に書き込みを行なってください。

直接移動すると、正しく書き込みが行われなかった場合、データが消失するおそれがあります。

CD-RW、CD-R に正しく書き込まれていることを確認した後、必要であればハードディスクからファイルを削除してください。

10

日常の取り扱いとお手入れ

⚠ 注意

- ・お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- ・機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

日常の取り扱いでは、次のことを守ってください。

パソコン本体

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を強くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5 ~ 35℃、湿度 20 ~ 80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所
非常に高温または低温になる場所
急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）
強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）
ホコリの多い場所
振動の激しい場所
薬品の充満している場所
薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。

電源コード

電源コードのプラグを長期間に渡って AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にはほこりを拭き取ってください。

キーボード

乾いた柔らかい素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を堅くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは交換を依頼してください（有償）。

液晶ディスプレイ

画面のお手入れ

- 画面の表面には偏向フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。

表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。

水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。

- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。

液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

サイドライト用 FL 管について

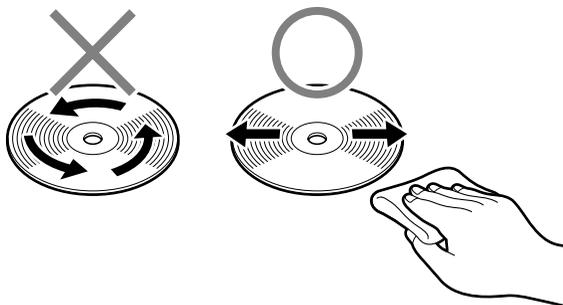
液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにサイドライト用 FL 管（冷陰極管）が内蔵されています。サイドライト用 FL 管（冷陰極管）は、ご使用になるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。有償にて交換いたします。

CD / DVD

CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってお取り扱いください。

- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



タッチパッド

乾いた柔らかい素材のきれいな布で拭いてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯に浸した布を固くしぼってから拭きます。

データのバックアップについて

重要な内容は必ず、定期的にバックアップをとって保存してください。バックアップとはハードディスクやソフトウェアの故障などでファイルが使用できなくなったときのために、あらかじめファイルをフロッピーディスクやCD-RW、CD-Rなどにコピーしておくことです。本製品は次のような場合、スタンバイ機能または休止状態が無効になり、本体内の記憶装置が変化し、消失するおそれがあります。

- ・ 誤った使いかたをしたとき
- ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- ・ 長期間使っていないために、バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）の充電量がなくなったとき
- ・ 故障、修理、バッテリー交換のとき
- ・ バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
- ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

記憶内容の変化／消失については、ハードディスクやフロッピーディスクなどに保存した内容の損害については当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

持ち運ぶとき

持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを守ってください。

- 電源は必ず切ってください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。
電源を切った後も、ハードディスク  アイコンが点灯中は動かさないでください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。
やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。また、CD / DVD がセットされている場合は、取り出してください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。また、日の当たる自動車内に置かないでください。
故障の原因になります。
- 持ち運ぶときはディスプレイを閉じてください。

消耗品について

次の部品は消耗品です。

- バッテリーパック（リチウムイオン電池）
長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリーパック（PABAS006）と交換してください。

仕様について

本製品の仕様は国内向けです。

国外で製品を使用する場合は、電源に合った電源コードをお買い求めください。

2章 周辺機器の接続

1	周辺機器について	72
2	PC カードを接続する	77
3	USB 対応機器を接続する	82
4	テレビを接続する	84
5	i.LINK (IEEE 1394) 対応機器を接続する ...	89
6	光デジタルオーディオ出力端子 対応機器を接続する	92
7	オーディオ機器を接続する	95
8	フロッピーディスクドライブを接続する	98
9	メモリを増設する	105

1

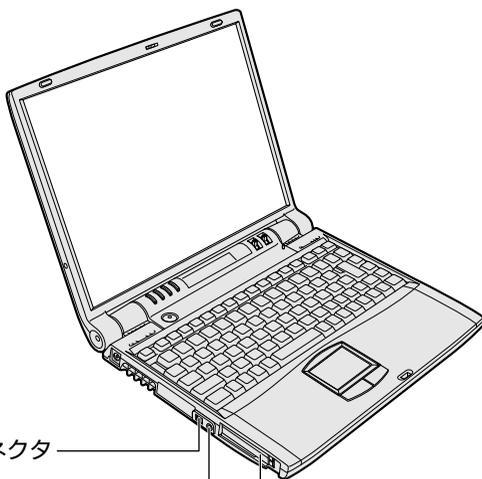
周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。周辺機器の例です。周辺機器には、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵済み）
- PCカード
- モデム（本製品では内蔵済み）
- スキャナ
- フロッピーディスクドライブ
- マウス
- デジタルカメラ
- 増設メモリ

1 本製品に接続できる周辺機器

本製品には次のような周辺機器を接続できます。
周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているかご確認のうえ、ご購入ください。



i₉₄₀₀ i.LINK (IEEE1394) コネクタ (⇒P.89)

i.LINK (IEEE1394) 規格の機器が接続できます。

↪ ビデオ出力端子 (⇒P.84)
テレビを接続します。

1 PCカードスロット1 (上段)

0 PCカードスロット0 (下段) (⇒P.77)

PC Card Standard TYPE II/III 準拠のカードを取り付けることができます。

また、CardBus対応カードを取り付けることができます。

 **ヘッドホン出力端子 (P.96)**

ヘッドホンを接続します。

音声はステレオで出力されます。

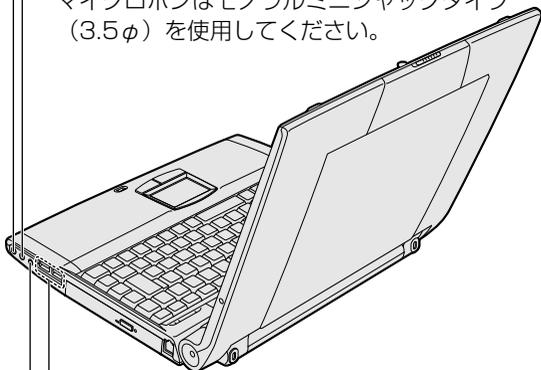
ヘッドホンはステレオミニジャックタイプ (3.5φ) を使用してください。

 **マイク入力端子 (P.95)**

マイクロホンを接続します。

マイクロホンはモノラルミニジャックタイプ

(3.5φ) を使用してください。



 **USBコネクタ (P.82)**

USB対応機器を接続します。

 **LINE OUT端子 (P.97) /  光デジタルオーディオ出力端子 (P.92)**

オーディオ機器や光デジタル対応機器に接続します。

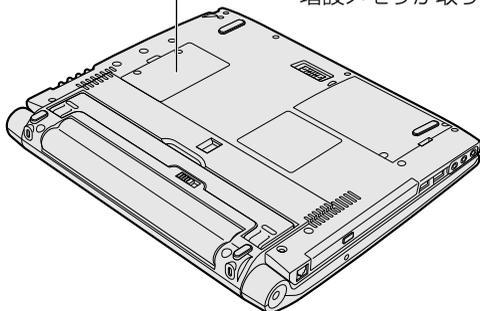
音声はステレオで出力されます。

接続ケーブルはステレオミニジャックタイプ (3.5φ) を使用してください。

また、光デジタル対応機器に接続する場合は、デジタル信号に対応したケーブルが必要です。

 **増設メモリスロット (P.105)**

増設メモリが取り付けられます。



2 周辺機器を使う前に知っておきましょう

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

プラグアンドプレイに対応している場合

Windowsには、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。周辺機器を接続すると、Windowsがドライバの有無をチェックします。その周辺機器に対応したドライバが見つかった場合は、自動的にインストールを開始します。

見つからなかった場合は、[新しいハードウェアの追加ウィザード] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。



(表示例)

プラグアンドプレイに対応していない場合

[新しいハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書をご覧になりながらドライバのインストールや必要な設定を行なってください。



● [新しいハードウェアの追加ウィザード] の起動方法

[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] をクリックし、[ハードウェアの追加] アイコン（表示されない場合は、画面左の [すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。] をクリック）をダブルクリックします。

3 周辺機器の取り付け／取りはずしのご注意

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。

注意

- ・ホットインサージョンに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コードのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。



- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境では作業しないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

パソコン本体へケーブルを接続するとき

ケーブルを接続するときは、次の点に注意して、接続してください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。

2

ピーシー

PCカードを接続する

目的に合わせたPCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

PCカードには、次のようなものがあげられます。

- ISDNカード
- スマートメディアアダプタカード
- SCSIカード
- フラッシュメモ리카ード
- 無線LANカード など

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

お使いのPCカードがホットインサージョンに対応しているか、詳しい使いかたなどについては『PCカードに付属の説明書』をご覧ください。



- PCカード接続のハードディスクドライブまたはCD-ROMドライブの動作中に、通信またはサウンドの再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
 - ・ 通信回線の速度が遅くなる、通信回線が切断される、ダイヤリングに失敗する
 - ・ サウンド再生時に音飛びが発生する

使用できる PC カードのタイプ

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II / III 対応のカード (CardBus 対応カードも含む) を使用できます。

使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よくご確認ください。

スロット 0 に TYPE III の PC カードを取り付けたときは、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

使用スロット	使用可能タイプ
1 (上側)	TYPE II
0 (下側)	TYPE II / III

取り付け／取りはずしのご注意

⚠ 注意

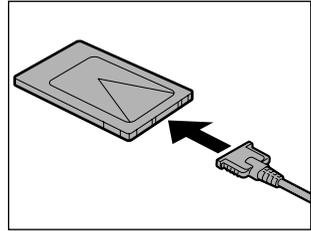
- ・ホットインサクションに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- ・PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- ・PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。



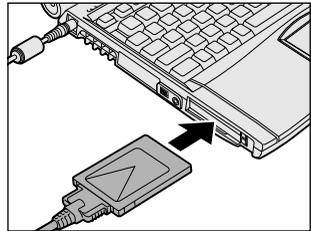
- 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

取り付け

- 1 PCカードにケーブルを付ける
SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。



- 2 上下や方向を確認し、PCカードを挿入する



カードは、無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

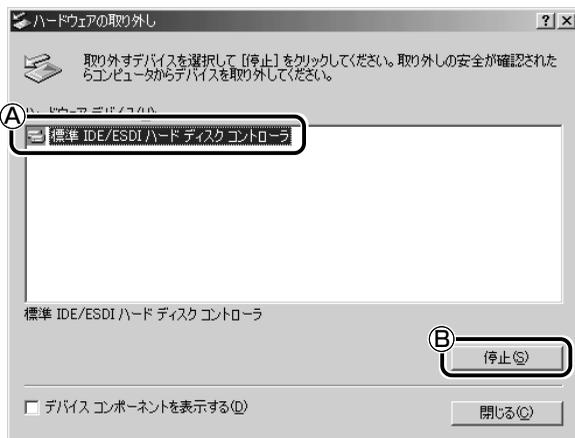
カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

 参照  カードの接続および環境の設定方法  『PCカードに付属の説明書』

取りはずし

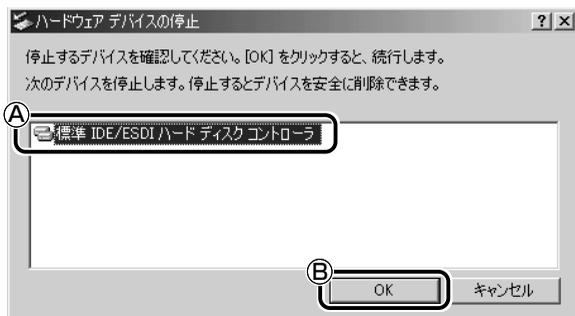
1 PCカードの使用を停止する

- ① タスクバーの () をダブルクリックする
- ② 取りはずす PC カードをクリックし、[停止] ボタンをクリックする



(表示例)

- ③ 取りはずす PC カードをクリックし、[OK] ボタンをクリックする

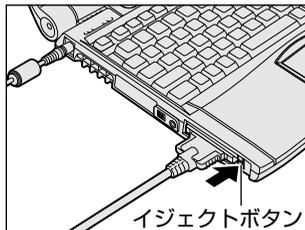


- ④ [ハードウェアの取り外し] 画面が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

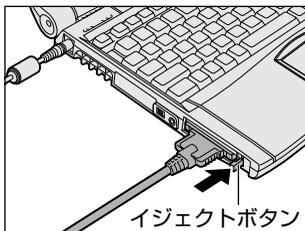


- ⑤ [閉じる] ボタンをクリックする

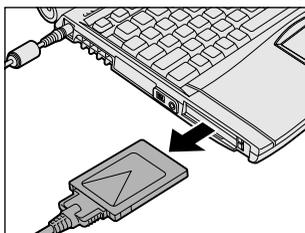
- 2** 取りはずしたいカードのイジェクトボタンを押す
イジェクトボタンが出てきます。



- 3** もう 1 度取りはずしたいカードのイジェクトボタンを押す
「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。



- 4** カードをしっかりとつかみ、引き抜く



- カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。

3

ユーエスピー

USB 対応機器を接続する

USB コネクタに接続します。

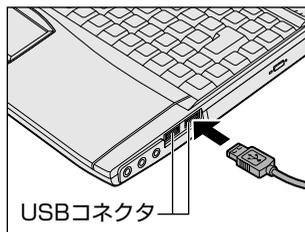
USB 対応機器は、電源を入れたまま、取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあげられます。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

取り付け

- 1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む
コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。



参照 USB 対応機器についての詳細 ⇨ 『USB 対応機器に付属の説明書』



● 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。



● USB コネクタが不足した場合は市販されている USB ハブを使用します。ハブを使うと最大で 127 台の周辺機器をつなぐことができます。接続できる最大数はハブによって異なります。

取りはずし

1 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く



- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- 今後出荷される USB 対応機器については、動作確認ができていないためすべての機器の動作を保証することはできません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイ機能を実行したり、休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

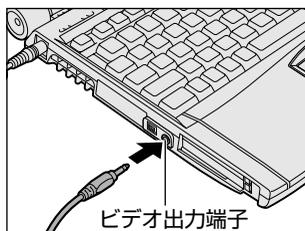
4

テレビを接続する

本製品には、テレビと接続できるビデオ出力端子が用意されています。同梱のビデオ変換ケーブルの他に市販のビデオケーブルが必要です。

取り付け

- 1 市販のビデオケーブルを接続したビデオ変換ケーブルのプラグをパソコン本体のビデオ出力端子に差し込む



- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグを、テレビの映像入力端子に接続した市販ケーブルの端子に、差し込む

テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行なってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

- 1 [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [画面] アイコン () をダブルクリックする

- 3 [設定] タブの [画面の領域] でスライダーバーを [640 × 480 ピクセル] に設定する

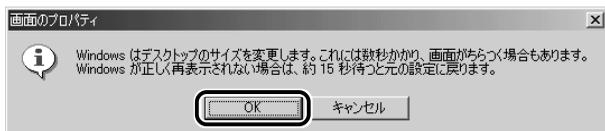


スライダーバー
クリックして左端
まで動かす

- 4 [適用] ボタンをクリックする

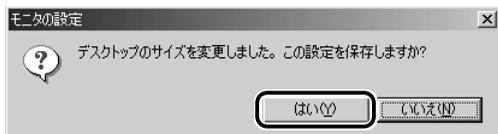
メッセージが表示されます。

- 5 [OK] ボタンをクリックする



メッセージが表示されます。

- 6 [はい] ボタンをクリックする



- 7 [画面のプロパティ] 画面の [設定] ボタンをクリックする

[Trident CyberBlade XP (22)] 画面が表示されます。

8 [表示デバイス] タブで [表示デバイス] の [TV] をチェックする



クリックする

- メモ** ● [LCD/TV] をチェックすると、パソコンの画面とテレビ画面の両方に表示されます。ただし、「InterVideo WinDVD」でDVD-Videoを再生する場合は、パソコンとテレビの両方に表示することはできません。

9 [適用] ボタンをクリックする メッセージが表示されます。

10 [OK] ボタンをクリックする

11 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

テレビ表示を調整する

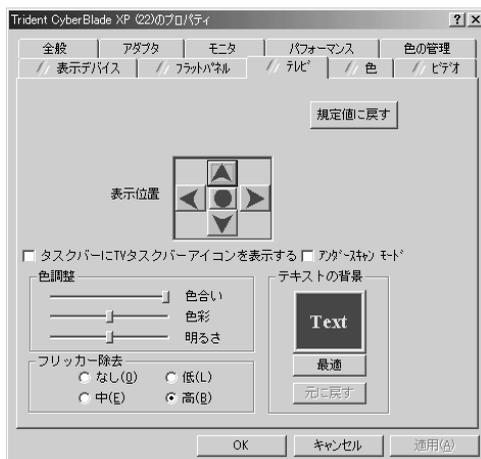
テレビに表示した画面を調整することができます。

1 [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] をクリックする

2 [画面] アイコン () をダブルクリックする

3 [画面のプロパティ] 画面の [設定] タブで [詳細] ボタンをクリックする

4 [テレビ] タブで設定を行う



- 表示位置** : 表示位置を上下左右に移動します。真ん中をクリックすると、表示位置が初期設定位置に戻ります。
- タスクバーに TV タスクバーアイコンを表示する** : タスクバーに TV タスクバーアイコンを表示する場合はチェックします。TV タスクバーアイコンで表示位置を調整できます。
- アンダースキャンモード** : 画面全体を TV の表示領域内に収まるようにする場合はチェックします。
- 色調整** : 「色合い」「色彩 (色の鮮やかさ)」「明るさ」を調節します。
- フリッカー除去** : フリッカーとは「画面のちらつき」のことです。画面がちらついて見える場合は、「低」～「高」をチェックします。
- テキストの背景** : TV 表示に適した背景色を設定する場合は、「最適」をクリックします。

5 [OK] ボタンをクリックする

6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

取りはずし

1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

5

アイリンク アイトリプルイーイチサンキューヨン i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。
i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあげられます。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応 CD-R/RW ドライブ など

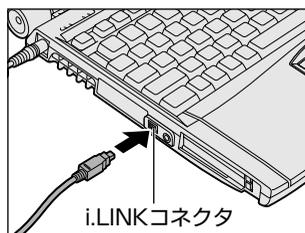
i.LINK (IEEE1394) 対応機器のご使用について

i.LINK (IEEE1394) 対応機器を使用する場合、次の注意事項を必ず守ってお取り扱いください。

- i.LINK 対応機器を使用しデータ転送を行う場合、必ずデータ (データファイルや、ビデオカメラで撮影したテープ) のバックアップをお取りください。特に動画データ転送時は、パソコンの処理に負担がかかり、状態によってはコマ落ちが発生する場合があります。また、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時にはご注意ください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラ等を使用し、データ通信を行なっている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け/取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。
i.LINK 対応機器の取り付け/取りはずしはデータ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行なってください。

取り付け

- 1** ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む
コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2** ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む



- i.LINK 対応機器を使用するには、システム（OS）および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行なっておりません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証いたしかねます。
- ケーブルは規格に準拠したもの（S100、S200、S400 対応）をご使用ください。詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- 3m 以内の長さのケーブルをご使用ください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイ機能の実行、または休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行なわないでください。行なった場合、データの内容は保証いたしかねます。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイ機能を実行したり、休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

取りはずし

- 1 タスクバーの[ハードウェアの取り外し]アイコン () をクリックする
- 2 取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- 3 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする
- 4 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

 参照  i.LINK 対応機器について  『i.LINK 対応機器に付属の説明書』

-  **お願い**
- デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1～3 が必要ない場合があります。

i.LINK による LAN 接続

システム (OS) が Windows Me で i.LINK コネクタがあるパソコンどうしを i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、LAN による通信ができます。

- 1 ケーブルの一方のジャックをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のジャックを接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

 参照  ネットワークの設定  『Windows のヘルプ』

-  **メモ**
- i.LINK コネクタが用意されているパソコンでも、機種によっては接続できない場合があります。

6

光デジタルオーディオ出力端子 対応機器を接続する

光デジタルオーディオ出力端子に接続します。
光デジタルオーディオ出力端子に接続できる機器（光デジタル対応機器とよびます）には、次のようなものがあげられます。

- MD プレーヤ
- MD コンポ
- 光入力スピーカ
- DAT プレーヤ
- 光入力付きアンプ など

取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の光デジタルオーディオ出力端子に差し込む

コネクタの形状を確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを光デジタル対応機器に差し込む



- すべての光デジタル対応機器の動作確認は行なっておりません。したがって、すべての光デジタル対応機器の動作は保証いたしかねます。
- 光デジタル対応機器を接続するためには市販のケーブルが必要です。パソコン本体の端子は光ミニプラグ、光デジタル対応機器の端子は光ミニプラグまたは光角形プラグです。ご使用の機器にあったケーブルをご購入ください。
- 光デジタルオーディオ出力端子から出力される音声は、サンプリング周波数が48kHzに固定されています。そのため、このサンプリング周波数に対応していない光デジタル対応機器では動作しません。
- 光デジタルオーディオ出力端子からの音声をコピーする場合、次の内容をよくお読みください。
 - ・ お客様が光デジタルオーディオ出力端子を使用して他人の著作物を録音、複製などを行う場合は、個人的に使用する目的のみ行うことができます。また著作物によっては、一切の録音、複製などができないものがあります。これらに反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、光デジタルオーディオ出力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著作権法を遵守の上、適切にご使用ください。
 - ・ お客様がソフトウェアの標準設定を変更して光デジタルオーディオ出力端子をご使用された場合、著作権者により「複製自由」とされた著作物であっても、「1回限りの複製」しかできない場合があります。
- 複製が禁止されている著作物は、再生のみ可能です。録音／複製はできません。
- 録音中はボリュームを操作したり、「ボリュームコントロール」の設定を変更しないでください。パソコンの再生音量を変更すると、MDレコーダの録音レベルも変更されてしまいます。録音中にパソコン本体からの再生音を消したい場合は [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] で [ヤマハ AC-XG] を起動し、[デジタル出力] タブの [アナログ出力の状態] で [アナログ出力を無効にする] に設定してください。元に戻したい場合は [アナログ出力を有効にする] に設定してください。

取りはずし

- 1 パソコン本体と光デジタル対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

光デジタル対応機器への録音

光デジタルオーディオ出力端子から、光デジタル対応機器（MD コンポなど）への録音方法について説明します。

1 光デジタル対応機器の電源を入れる

2 光デジタル対応機器を録音待機状態にする

詳細は、『光デジタル対応機器の説明書』をご覧ください。

3 パソコンで録音したい音楽などを再生する

次の場合に録音ができます。

- ・「Windows Media Player」など、Windows に用意されているプレーヤまたは「LIVE MEDIA PLAYER」など一般のプレーヤで Wave ファイル、Midi ファイル、ムービーファイル (AVI / MPG)、音楽 CDなどを再生する場合
- ・「InterVideo WinDVD」で「コピー可」のメディアを再生する場合

光デジタル対応機器にシンクロ録音機能がある場合、録音が自動的に開始されます。

シンクロ録音機能がない場合は、光デジタル対応機器側で録音を開始し、パソコン側で音楽などの再生を開始してください。



音量の調節 ⇨ 「1 章 7 サウンド機能」



- シンクロ録音機能をお使いになる場合は、コントロールパネルの「ヤマハ AC-XG」をダブルクリックし、「[デジタル出力] タブで [オン (デジタルソースのみ)] をチェックしてください。



- 「InterVideo WinDVD」で「コピー禁止」のメディアを再生した場合、また「Audio Manager」など、著作権保護機能 (SCMS に準拠) を持つプレーヤで CD や音楽ファイルを再生した場合、録音はできません。



- **シンクロ録音機能** ● 光デジタル対応機器が、パソコン上で音楽が再生されたことを自動的に認識し、録音を開始する機能。
- **SCMS (シリアル・コピー・マネージメント・システム)** ● デジタル音源からのコピーを一世代のみに制限する技術。例えば、音楽 CD から CD や MD に録音することはできるが録音した CD や MD から、さらに他の CD や MD に録音することはできない。

7

オーディオ機器を接続する

マイクロホンやヘッドホンを接続します。
本製品にはサウンド機能が内蔵されています。
サウンド機能については、「1 章 7 サウンド機能」をご覧ください。

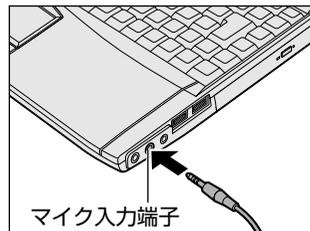
1 マイクロホン

マイク入力端子に接続します。
マイクのプラグは、直径 3.5mm φ モノラルミニジャックタイプをお使いください。

接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。



2 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm ϕ ステレオミニジャックタイプをお使いください。

ヘッドホンの音量はボリューム、または Windows の「ボリュームコントロール」で調節してください。



● ボリュームコントロールの起動方法

タスクバーの [音量] アイコン () をダブルクリックします。

⚠ 注意

・ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。

耳を刺激するような大きな音量を長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えるおそれがあります。



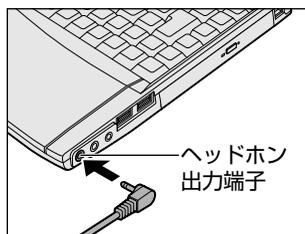
● 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。



3 オーディオ機器

LINE OUT 端子に接続します。

オーディオケーブルのプラグは、直径 3.5mm φ ステレオミニジャックタイプをお使いください。

接続

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の LINE OUT 端子に差し込む
コネクタの形状を確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器の LINE IN 端子に差し込む

8

フロッピーディスクドライブを接続する

本製品では、USB 接続タイプのフロッピーディスクドライブ（別売り）を使用できます。

フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、ほかのパソコンとデータをやり取りすることができます。



- 読み書きできるフロッピーディスクのフォーマット形式は、2HDの場合は 1.44MB 形式、2DD の場合は 720KB 形式です。2HD の 1.2MB 形式および 1.25MB 形式のフロッピーディスクについては、読み書きすることはできませんが、1.2MB 形式および 1.25MB 形式でフォーマットすることはできません。

1 フロッピーディスク

フロッピーディスクのご使用について

フロッピーディスクは消耗品です。キズがついた場合は交換してください。

フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。
汚れると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

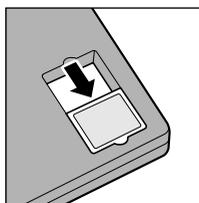
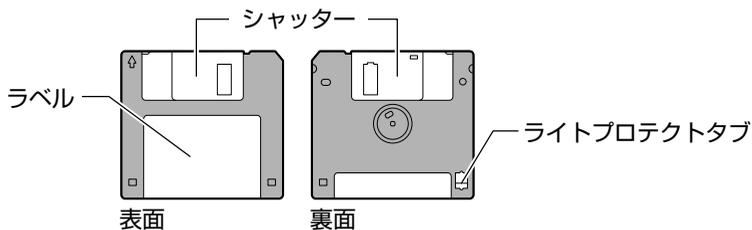
環境	使用時	保管時
温度	5~35℃	4~53℃

- ラベルは正しい位置に貼ってください。
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスの近くにフロッピーディスクを置かないでください。
- 3.5型フロッピーディスクは当社の次の製品をお使いください。
他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかったり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

製品番号	形式
M4293	2HD形式
M4216	2DD形式

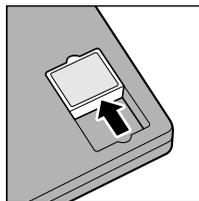
ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。
データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

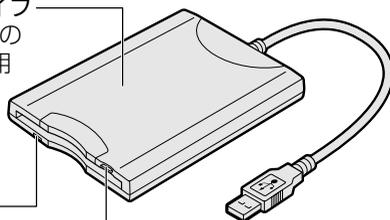
ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブ
3.5型の2HD、2DD形式の
フロッピーディスクが使用
できます。

FDD LED

点灯中は、フロッピーディスク
にアクセスしていることを示し
ます。



イジェクトボタン

フロッピーディスクを取り出す
ときに、このボタンを使用します。

フロッピーディスクドライブのご使用について

フロッピーディスクドライブをお使いになる場合は、次のことに注意してください。

- フロッピーディスクドライブは、必ず水平に置いて使用してください。また、フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れる可能性があります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。また、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出してください。

⚠ 注意

- ・パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（FDD LEDが点灯しているとき）に、電源を切ったり、USBケーブルを抜いたりイジェクトボタンを押したりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。



参照 フロッピーディスクドライブの取り付け／取りはずしの方法について

☞「本章 3 USB 対応機器を接続する」

常にフロッピーディスクから起動する場合

次の設定を行なってください。

- 1 [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] をクリックし、[東芝HW セットアップ] をダブルクリックする
[コントロールパネル] 画面に [東芝HW セットアップ] アイコンが表示されていない場合は、画面左の [すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。] をクリックしてください。
- 2 [OSの起動] タブで [OSの起動] を [FDD] が最初になるように設定する
- 3 [OK] ボタンをクリックする

一時的にフロッピーディスクから起動する場合

- 1 (F)キーを押しながら、電源スイッチを押す

3 フロッピーディスクのフォーマット

新品のフロッピーディスクを使うときには、使用するシステムにあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

新品のフロッピーディスクには、システムの種類別にフォーマットされているものと、フォーマットを行わずに販売されているものがあります。

新品のフロッピーディスクを使用する場合は、「Windows フォーマット済み」かどうか確認してください。フォーマットされていないフロッピーディスクは、必ずフォーマットを行なってください。

他のシステム上でフォーマットされたフロッピーディスクも、Windows 上でフォーマットすることにより、Windows で使用することができます。



- フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えます。1 度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。詳しくは、『Windows のヘルプ』をご覧ください。

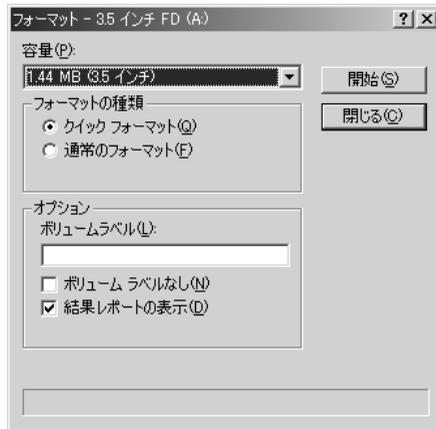


- 他社のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクの中には使用できないものがあります。
- 2HD フロッピーディスクを 2DD タイプでフォーマットしたり、またその逆でのフロッピーディスクの使用はできません。正しくフォーマットされているフロッピーディスクを使用してください。
- フォーマット形式は、2DD の場合は 720KB、2HD の場合は 1.44MB のみになります。

1 フォーマットするフロッピーディスクをセットする

2 デスクトップ上の [マイ コンピュータ] アイコンをダブルクリックする

- 3 [3.5 インチ FD (A:)] のアイコンをクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] のアイコンが選択され、アイコンの色が反転します。
- 4 [ファイル] メニューの [フォーマット] を選択する
- 5 フォーマット方法を選択し、[開始] ボタンをクリックする
未フォーマットのフロッピーディスクを使用して、フォーマットや起動ディスクの作成をする場合、かなり時間がかかることがあります。



(表示例)

フォーマットが開始されます。
フォーマットが終了すると、フロッピーディスクの情報が表示されますので、確認してください。

- 6 [フォーマット結果] の内容を確認し、[閉じる] ボタンをクリックする
これで、フォーマットは完了です。
他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から行います。
フォーマットを終了する場合は、[閉じる] ボタンをクリックします。

9

メモリを増設する

増設メモリスロットに256MBまでの増設メモリを取り付けることができます。増設メモリは、本製品で動作が保証されているものをご購入ください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

取り付け／取りはずしのご注意

⚠ 警告

- ・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。

⚠ 注意

- ・ステーブル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- ・次のような場合、増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。やけど、感電、故障のおそれがあります。
 - ・スタンバイ機能を実行中
 - ・電源を切った直後
電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。
- ・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。



- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。休止状態が無効になります。また、本体内の記憶内容が変化し、消失することがあります。
- ネジをはす際は、十字ねじ回しビット 1 番のドライバを使用してください。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行なってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

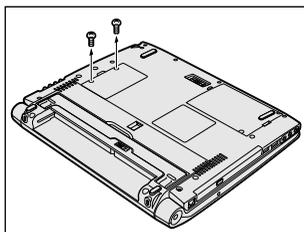
取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはすす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリーパックを取りはずす

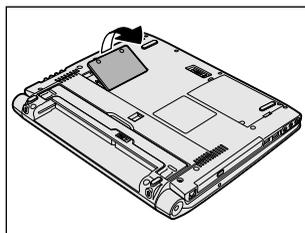


バッテリーパックについて ⇨ 「1 章 8-3 バッテリーパックを交換する」

- 4 増設メモリカバーのネジ 2 本をはすす

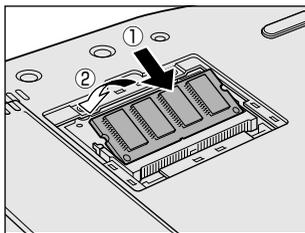


5 増設メモリカバーをはずす



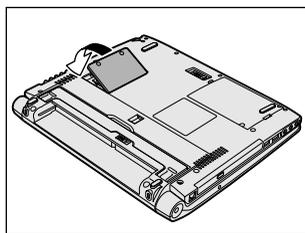
6 増設メモリを増設メモリスロットの コネクタに斜めに挿入し、固定 するまで増設メモリを倒す

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

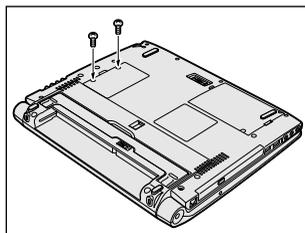


7 増設メモリカバーをはめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。



8 手順4ではずしたネジ2本と める



9 バッテリーパックを取り付ける

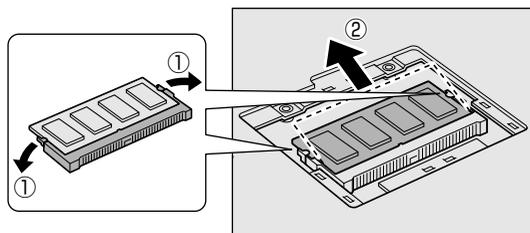
 バッテリーパックについて ⇨ 「1章 8-3 バッテリーパックを交換する」

取りはずし

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリーパックを取りはずす

 参照  バッテリーパックについて ⇨ 「1 章 8-3 バッテリーパックを交換する」

- 4 増設メモリカバーのネジ 2 本をはずす
- 5 増設メモリカバーをはずす
- 6 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリをパソコン本体から取りはずす
斜めに持ち上がった増設メモリを引抜き抜きます。



- 7 増設メモリカバーをはめる
増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。
- 8 手順 4 ではずしたネジ 2 本でとめる
- 9 バッテリーパックを取り付ける

 参照  バッテリーパックについて ⇨ 「1 章 8-3 バッテリーパックを交換する」

3章 パスワード セキュリティ機能

- 1 パスワードセキュリティ機能について 110
- 2 ユーザパスワードの設定 111
- 3 ユーザパスワードの入力 114
- 4 スクリーンセーバーパスワード 115

1

パスワードセキュリティ機能 について

本製品では、「パスワードセキュリティ機能」を設定できます。

- ・ ユーザパスワード
電源を入れたときや休止状態から復帰するときに入力する
- ・ スクリーンセーバーパスワード
スクリーンセーバーを解除するときに入力

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「**** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。

よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : , . / (スペース)
使用できない文字	・ 全角文字 (2バイト文字) ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・ 単独のキーで入力できない (入力するときに Shift キーなどを使用する) 文字 【例】 (バーチカルライン)、& (アンド)、 ~ (チルダ) など ・ ¥ (エン) ¥ _ キーや ~ _ キーを押すと ¥ が入力されます。	

2

ユーザパスワードの設定

ユーザパスワードを設定すると、電源を入れたときや休止状態から復帰するときにパスワード入力が必要されます。

ユーザパスワードの登録/削除は、「東芝HWセットアップ」で行います。

東芝HWセットアップの起動方法

- 1 [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [東芝HWセットアップ] アイコン () をダブルクリックする



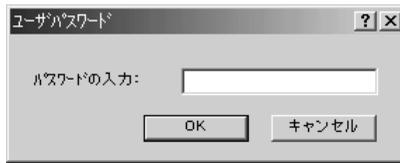
- [コントロールパネル] 画面に [東芝HWセットアップ] アイコンが表示されていない場合は、画面左の [すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。] をクリックしてください。

ユーザパスワードの登録

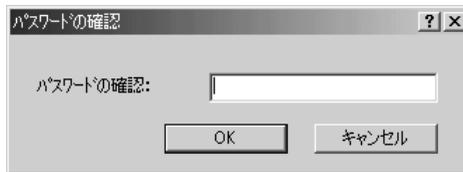
- 1 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする



- 2 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードは大文字、小文字を区別しません。



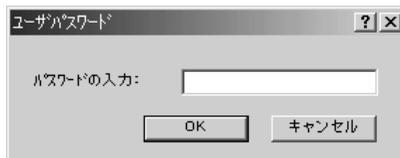
- 3 [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする



- 4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

ユーザパスワードの削除

- 1 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする
- 2 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする



- 3 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

-  ● パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。
この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行なってください。

キーフロッピーディスクの作成

ユーザパスワードの設定後、キーフロッピーディスクを作成できます。キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除ができます。

- 1 電源を切る
- 2 別売りのフロッピーディスクドライブを接続し、書き込み可能状態のフロッピーディスクをセットする
- 3 電源を入れる
ナビパネルに「Password =」と表示されます。
- 4 設定したとおりにパスワードを入力する
- 5 **(Tab)**キーを押す
ナビパネルに「Insert FD Ready (Y/N)」と表示されます。
- 6 **(Y)**キーを押す
フロッピーディスクに書き込みが始まります。書き込みが終了すると、ナビパネルに「Remove FD press key.」と表示されます。
- 7 何かキーを押す
Windowsが起動します。

-  ● キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよくご確認ください。

3

ユーザパスワードの入力

ユーザパスワードが設定されている場合、電源を入れると、ナビパネルに「Password=」と表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

- 1 設定したとおりにパスワードを入力し、**(Enter)**キーを押す
パスワードは大文字、小文字を区別しません。

 ● パスワードの入力ミスが 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除ができます。

- 1 電源を入れる
ナビパネルに「Password =」と表示されます。
- 2 別売りのフロッピーディスクドライブを接続し、作成したキーフロッピーディスクをセットする
- 3 **(Enter)**キーを押す
フロッピーディスクから読み込みがはじまり、Windows が起動します。
設定したパスワードは解除されます。

 ● キーフロッピーディスクを作成していなかった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は有償になります。また、そのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4

スクリーンセーバーパスワード

(Fn)+(F1)キーを押すと、「模様なし」のスクリーンセーバーが実行され、画面が暗くなります。

スクリーンセーバーを解除するには、何かキーを押すか、タッチパッドの操作を行なってください。

スクリーンセーバーのパスワードを設定すると、スクリーンセーバーを解除するときにパスワード入力が必要されます。

スクリーンセーバーのパスワードは、[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで設定します。

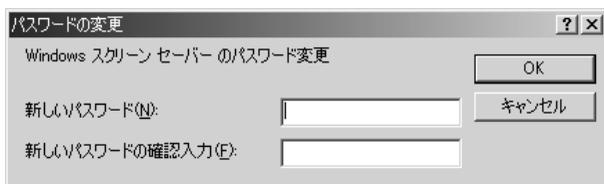
スクリーンセーバーパスワードの登録

- 1 [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [画面] アイコン () をダブルクリックする
- 3 [スクリーンセーバー] タブでスクリーンセーバーを選択する
- 4 [パスワードによる保護] をチェックし、[変更] ボタンをクリックする



(表示例)

- 5 [パスワードの変更] 画面の [新しいパスワード] にパスワードを入力する



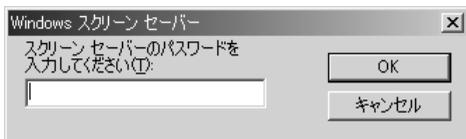
- 6 [パスワードの変更] 画面の [新しいパスワードの確認入力] にもう 1 度パスワードを入力する

- 7 [OK] ボタンをクリックする

- 8 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

スクリーンセーバーパスワードの入力

スクリーンセーバーの動作中にキー入力やタッチパッド操作を行うと、パスワード入力画面が表示されます。



- 1 設定したとおりにスクリーンセーバーパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

ナビパネルの大文字ロック **A** アイコンは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

4章 仕様

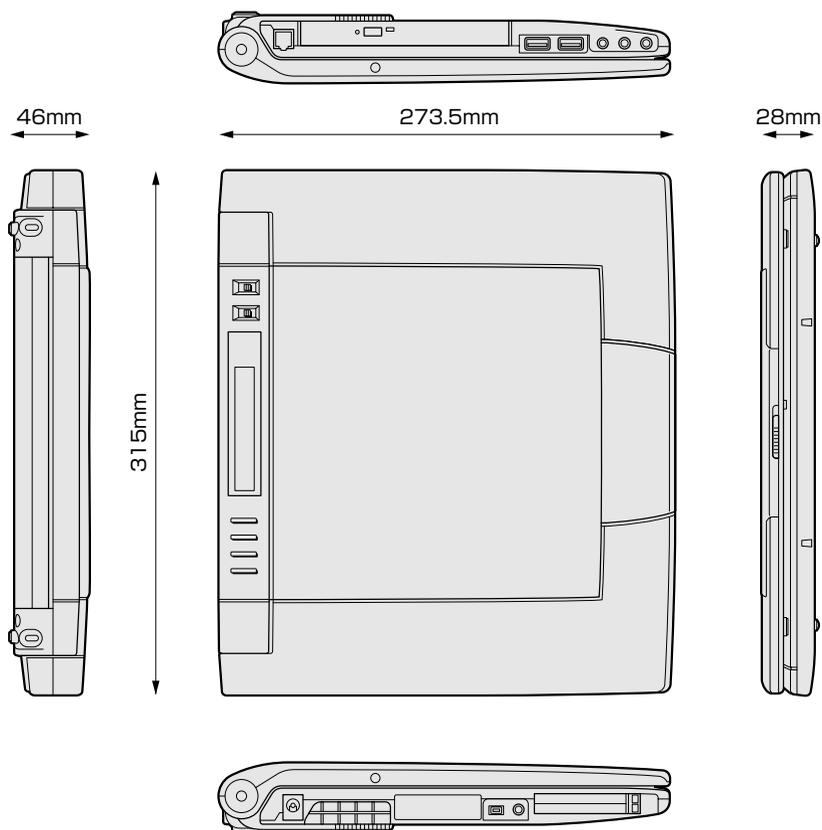
1	本製品の仕様	118
2	各インターフェースの仕様	123

1

本製品の仕様

1 外形寸法図

*数値は突起部を含みません。



2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

本製品はVGA互換のディスプレイコントローラを搭載しています。

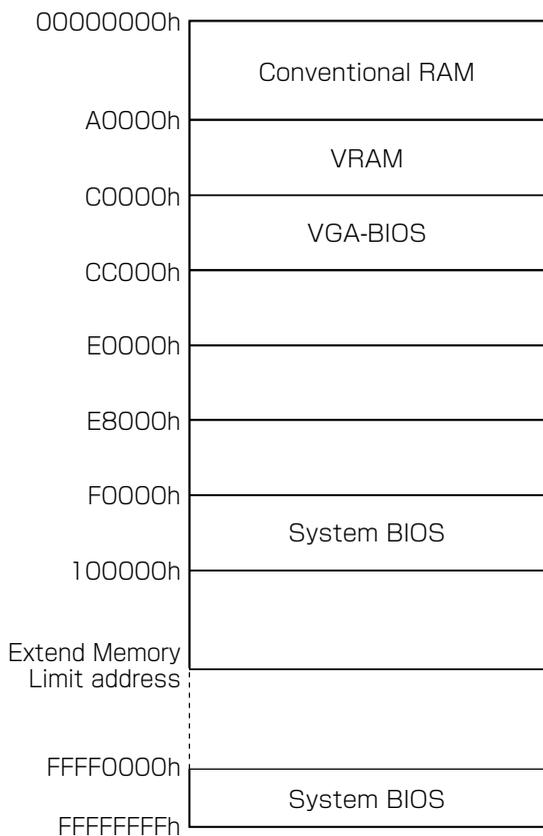
本製品がWindows上でサポートしているすべてのビデオモードを次に示します。

解像度	LCDの表示
640 × 480ドット	256/256K
800 × 600ドット	256/256K
1024 × 768ドット	256/256K
1280 × 1024ドット	256/256K *1
1600 × 1200ドット	256/256K *1
640 × 480ドット	64K/64K
800 × 600ドット	64K/64K
1024 × 768ドット	64K/64K
1280 × 1024ドット	64K/64K *1
1600 × 1200ドット	64K/64K *1
640 × 480ドット	16M/16M
800 × 600ドット	16M/16M
1024 × 768ドット	16M/16M

*1：実際の画面（1024 × 768）内に、仮想スクリーン表示しますが、画面が一部表示できない場合があります。

3 メモリマップ

本製品では、メモリを次のように使用しています。



4 I/Oポートマップ

本製品を、標準のハードウェア構成で使用した場合のマップです。

000h	
020h	DMAコントローラ #1
040h	IRQコントローラ #1
060h	タイマ
070h	KBC
	NMIマスキレジスタ

	RTC
080h	DMAページレジスタ
0A0h	IRQコントローラ #2
0C0h	DMAコントローラ #2
0F0h	NDP
100h	
170h	マルチドライブ、CD-R/RWドライブ
178h	
1F0h	HDC
1F8h	
200h	
220h	
240h	サウンド (SB Pro)
260h	サウンド (SB Pro)
278h	
280h	
2A0h	
2E8h	
2F0h	
2F8h	
300h	
376h	マルチドライブ、CD-R/RWドライブ
378h	
380h	
3B0h	VGA
3BCh	
3C0h	VGA
3E0h	東芝PCカードインタフェースコントローラ
3E8h	
3F0h	FDC/HDC
3F8h	
400h	
480h	
4A0h	DMA Hiページレジスタ
530h	
538h	サウンド (WSS)
604h	
60Ch	サウンド (WSS)
E80h	
E88h	サウンド (WSS)
F40h	
F48h	サウンド (WSS)

5 DMA 使用リソース

DMA		PIT
0	サウンド*	1
1	サウンド*	
2	なし	
3	サウンド*	
4	Cascade for CTLR1	2
5	なし	
6	なし	
7	なし	

*サウンドドライバにより設定されます。

6 IRQ 使用リソース

IRQ		PIT
0	タイマ (PIT)	#1
1	キーボード (KBC)	
2	IRQ8~15 PIT #2入力	
3	*	
4	*	
5	*	
6	*	
7	*	
8	RTC	#2
9	ACPI	
10	*	
11	*	
12	マウス	
13	NDP	
14	HDC	
15	マルチドライブ、CD-R/RWドライブ	

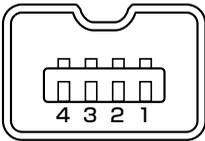
*システムによって設定されます。デバイスマネージャで確認してください。

2

各インタフェースの仕様

1 i.LINK (IEEE1394) インタフェース

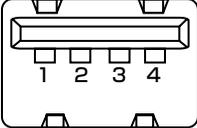
仕様

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TPB-	ストロープ受信／データ送信 (2対の差動信号)	I/O
2	TPB+	ストロープ受信／データ送信 (2対の差動信号)	I/O
3	TPA-	データ受信／ストロープ送信 (2対の差動信号)	I/O
4	TPA+	データ受信／ストロープ送信 (2対の差動信号)	I/O
コネクタ図			
			

2 USBインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グラウンド	

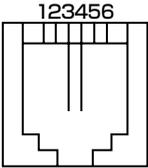
コネクタ図



3 モデムインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	—	ノーコンタクト	
2	—	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	—	ノーコンタクト	
6	—	ノーコンタクト	

コネクタ図



漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



参照  省電力設定について ⇨ 「1章 8-4 省電力ユーティリティを使う」

FCC information

Product name : DynaBook V2/470PMC, DynaBook V2/470CRC

Model number : PAV2470PMC, PAV2470CRC

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING: *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by Toshiba is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's or TV port, USB port, IEEE1394 port, modem port, SPDIF port and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by Toshiba or parties authorized by Toshiba could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : Toshiba America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA



EU Declaration of Conformity
EU Übereinstimmugserklärung
Déclaration de conformité UE
Declaración de conformidad de la UE
Dichiarazione di conformità UE
EU Försäkran om överensstämme

Toshiba declares, that the product: PAV2470 conforms to the following Standards:

Toshiba erklärt, daß das Produkt: PAV2470 folgenden Normen entspricht:

Toshiba déclarent que le produit cité ci-dessous: PAV2470 est conforme aux normes suivantes:

Toshiba declaran que el producto: PAV2470 cumple los sigulentes estándares:

Toshiba dichiara, che il prodotto: PAV2470, é conforme alle seguenti norme:

Toshiba intygar att produkten: PAV2470 överensstämmer med följande normer:

Supplementary Information: “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC and the EMC Directive 89/336/EEC.”

Weitere Informationen: “Das Produkt entspricht den Anforderungen der Niederspannungs-Richtlinie 73/23/EG und der EMC Richtlinie 89/336/EG.”

Informations complémentaires: “Ce produit est conforme aux exigences de la directive sur les basses tensions 73/23/CEE et de la directive EMC 89/336/CEE.”

Información complementaria: “El Producto cumple los requisitos de baja tensión de la Directiva 73/23/CEE y la Directiva EMC 89/336/CEE.”

Ulteriori informazioni: “Il prodotto é conforme ai requisiti della direttiva sulla bassa tensione 73/23/EG e la direttiva EMC 89/336/EG.”

Ytterligare information: “Produkten uppfyller kraven enligt lägsäpänningsdirektiver 73/23/EEC och EMC-direktiv 89/336/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is Toshiba Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

仕
様

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項をお守りください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、クウェート、ギリシャ、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、中国、チェコ、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2001 年 5 月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域ではご使用になれません。ご注意ください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムをご購入ください。

内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。

上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話 端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。



- 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、内蔵モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- 内蔵モデムを使用する場合は、ご使用になる地域にあわせて設定が必要です。
- 内蔵モデムは、モニタ音がならない仕様になっています。



詳細について  《オンラインマニュアル》

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- _ The telephone number of the line to which you will connect the modem
- _ The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- _ The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your computer's user's guide.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can. In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by Toshiba Corporation or an authorized representative of Toshiba Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1** NOTICE: The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction. Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2** The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your computer's user's guide.

NOTICE: The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3** The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA: 1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the country selection is set to Australia.

The use of other country setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the country is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the country permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia country setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

_ The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.

_ In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:

- a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
- b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.

_ This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.

_ Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:

- a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and
- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
- c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.

_ Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.

_ The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

ATBO (CCITT operation)
AT&G2 (1800 Hz guard tone)
AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
ATSO=0 (not auto answer)
ATS6=2, 3, 4, 5, 6 or 7 (Blind dial delay, factory default value of 2 is recommended)
ATS7=less than 90 (Time to wait to carrier after dialing)
ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 14 recommended)
ATS11=95 (DTMF dialing on/off duration=95 ms)
ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

_ When used in the Auto Answer mode, the SO register must be set with a value between 2 and 10. This ensures:

- (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
- (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- _ The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.

Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.

- _ The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.

Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.

- _ It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.

- _ When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.

- _ This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as FaxAbility.

NOTE THAT FAULT CALLOUTS CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

松下 CD-RW / DVD-ROM ドライブ UJDA710 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用
しています。

本装置の定格銘板に
は、右記の表示がされ
ています。

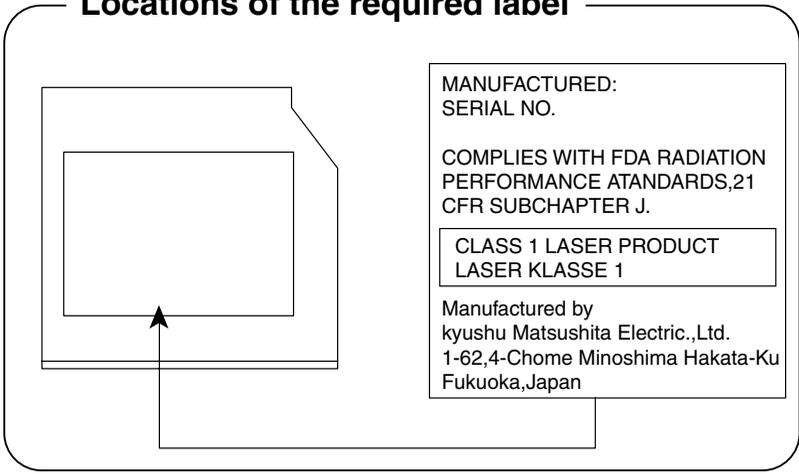
本装置はヨーロッパ共
通のレーザ規格
EN60825で“クラ
ス1レーザー機器”に
分類されています。
レーザー光を直接被爆
することを防ぐため
に、この装置の筐体を
開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNNGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÅR ÖPPNAD. STRÅLE ÅR FARLIG.
VARO!	NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Locations of the required label



仕様

TEAC CD-R/RW ドライブ CD-W24E

安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。

本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。

レーザー光を直接被曝することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

**CAUTION
ATTENTION**

INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE.
EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.

VORSICHT

UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET.
NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

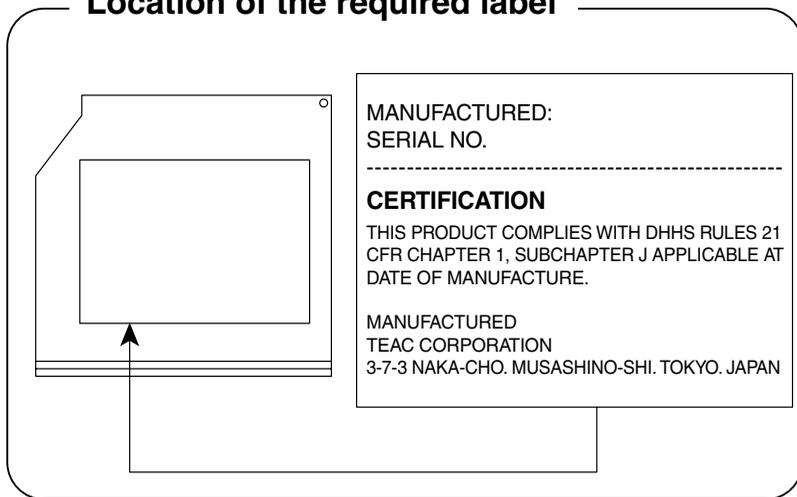
**ADVARSEL
ADVARSEL**

USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.

**VARNING
VARO!**

OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

Location of the required label



さくいん

(A)

AC アダプタアイコン 14

(C)

CD 53

CD-R/RW ドライブ 11

CD のセット 57

CD の取り扱い 68

CD の取り出し 58

(D)

DVD 53

DVD のセット 57

DVD の取り扱い 68

DVD の取り出し 58

(I)

i.LINK コネクタ 10, 73, 90

i.LINK 対応機器の取り付け 90

i.LINK 対応機器の取りはずし 91

IEEE 1394 コネクタ ... 10, 73, 90

IEEE 1394 対応機器の

取り付け 90

IEEE 1394 対応機器の

取りはずし 91

(L)

LINE OUT 端子 11, 74, 97

(M)

Mute 14

(P)

PC カードスロット 10, 73

PC カードの取り付け 79

PC カードの取りはずし 80

(S)

SCMS 94

(U)

USB コネクタ 11, 74, 82

USB 対応機器の取り付け 82

USB 対応機器の取りはずし 83

(エ)

液晶ディスプレイ 10, 32

液晶ディスプレイの取り扱い 67

(オ)

オーディオ機器の接続 97

オーディオプレイボタン 10, 23

大文字ロックアイコン 14

(カ)

画面のお手入れ 67

(キ)

キーフロッピーディスク 113

キーボード 10

キーボードの取り扱い 67

休止状態 51

(ク)

クリックする 25

(コ)

誤動作防止機能 22

(サ)

サイドライト用FL管 67

サウンド機能 35

(シ)

省電力ユーティリティ 47

消耗品 70

ジョグボタン 10, 13

シンクロ録音機能 94

(ス)

スクリーンセーバーパスワードの
登録 115

スクリーンセーバーパスワードの
入力 116

スタンド 12

スタンバイ 51

ステータス表示 19

スピーカ 10

スピーカの音量を調整する 35

スリープアイコン (休止状態) 14

スリープアイコン (スタンバイ状態)
..... 14

(セ)

セキュリティロックスロット 11

(ソ)

増設メモリスロット 12, 74

(タ)

タッチパッド 10, 24

タッチパッドの取り扱い 69

タッピング機能 25, 27

ダブルクリックする 25

(ツ)

通風孔 10

(テ)

ディスプレイ開閉ラッチ 10

テレビに表示する 84

テレビの取り付け 84

テレビの取りはずし 88

電源アイコン 14

電源コードの取り扱い 67

電源コネクタ 10

電源スイッチ 10

(ト)

東芝HWセットアップ 111

東芝サービス 18

時計用バッテリー 43

ドライバをインストールする 75

ドラッグアンドドロップする 26

(ナ)

ナビパネル 10, 13

(ハ)

ハードディスクアイコン 14, 34

ハードディスクドライブ 34

パスワードとして使用できる文字
..... 110

パソコン本体の取り扱い 66

パソコンを持ち運ぶとき	70
バックアップ	60, 69
バックライト	19
バッテリー	39
バッテリーアイコン	14, 41
バッテリー充電量の減少	42
バッテリー充電量を確認する	41
バッテリーで使用できる時間	45
バッテリーの充電時間	44
バッテリーパック	12
バッテリーパックを交換する	46
バッテリー・リリースラッチ	12
バッテリーを充電する	44
バッテリーを節約する	45

(ヒ)

光ディスクアイコン	14, 55
光デジタルオーディオ出力端子	11, 74, 92
光デジタルオーディオ出力端子 対応機器の取り付け	92
光デジタルオーディオ出力端子 対応機器の取りはずし	93
左ボタン	10
ビデオ出力端子	10, 73, 84

(フ)

フォーマット (フロッピーディスク)	103
プラグアンドプレイ	75
フロッピーディスク	99
フロッピーディスクドライブ	101

(ヘ)

ヘッドホン出力端子	11, 74, 96
ヘッドホンの接続	96

(ホ)

ボリューム	10, 35
ボリュームコントロール	36

(マ)

マイク入力端子	11, 74, 95
マイクロホンの接続	95
マウスのプロパティ	24
マルチドライブ	11

(ミ)

右ボタン	10
------------	----

(メ)

メモリの取り付け	106
メモリの取りはずし	108

(モ)

モジュージャック	11
----------------	----

(ユ)

ユーザパスワードの削除	112
ユーザパスワードの登録	111
ユーザパスワードを 忘れてしまった場合	114

(ラ)

ライトプロテクトタブ	100
------------------	-----

(ロ)

録音レベルの調整	37
----------------	----